魔戦隊ゴーカイジャーVSプリキュアオールスターズ2 プリキュアが敵！？世界の破壊者降臨！

キュアノア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
海賊戦隊ゴーカイジャーＶＳプリキュアオールスターズ２　プリキュアが敵!?世界の破壊者降臨!

【Ｎコード】
Ｎ３７７２Ｘ

【作者名】
キュアノア

【あらすじ】
ある日、プリキュアの世界がハイパーショッカーの支配する世界になってしまった!プリキュアは謎の組織、ハイパーショッカーにより洗脳されてしまう。ひかりはゴーカイジャーの世界へ行き、マーベラス達にこの事を伝える。それを聞いたマーベラス達は再びプリキュアの世界へ行く事に・・・そして仮面ライダーディケイドやディエンド、クウガやキバーラ、更にプリキュアを救う鍵となるキュアパイレーツが登場!プリキュアの世界を守るために立ち向かえ

！ゴーカイジャー！仮面ライダー！プリキュア！

プロローグ

とある場所

ブラック「ハァ、ハァ・・・」

キュアブラック、キュアホワイト、シャイニールミナス、キュアブライト、キュアウィンディ、キュアドリーム、キュアルージュ、キュアレモネード、キュアミント、キュアアクア、ミルキィローズ、キュアピーチ、キュアベリー、キュアパイン、キュアパッション、キュアブロッサム、キュアマリン、キュアサンシャイン、キュアムーンライト、キュアメロディ、キュアリズム、キュアビートはガラガランダ、イカデビル、ヒルカメレオン、アポロガイスト、ジェネラルシャドウ、シャドームーン、ジャーク将軍と戦っていた。

ブライト「何なのこいつ等？」

ドリーム「強過ぎる。」

ピーチ「私達の技が通用しないなんて・・・」

ブロッサム「皆さん、まだ諦めちゃダメです！」

メロディ「そうだよ！きっと何か、弱点があるはず・・・」

ガラガランダ「残念だが、俺達に弱点はない。」

アポロガイスト「その通りだ！さぁ、おとなしくプリキュアの大いなる力を渡して貰おう！」

ビート「やっぱり、貴方達の狙いはプリキュアの大いなる力！」

ルミナス「プリキュアの大いなる力は、絶対に渡しません！」

ジェネラルシャドウ「ほぅ？ならば、力ずくでも・・・」

ジェネラルシャドウ達はブラック達に近寄っていく。

ホワイト「ルミナス、此処は私達に任せてミップル達と一緒に逃げて！」

ルミナス「何を言ってるのですか！？そんな事私には出来ません！」

ウィンディ「ルミナス。気持ちは分かるけど、あいつ等の狙いはプリキュアの大いなる力なの！」

ルージュ「だから、あいつ等に渡す訳にはいかない！」

ルミナス「でも！」

イカデビル「お喋りは、そこまでだー！」

イカデビルはルミナスに向けて手からイカ爆弾を発射した。それを気付いたレモネードはルミナスを庇い、イカ爆弾に直撃した。

ルミナス「レモネード！」

レモネード「ルミナス、私達は・・・大丈夫です。」

ミント「レモネード！」

ミントは倒れそうになったレモネードを支える。

アクア「心配しないで。必ず帰って来るから。」

ローズ「そうよ。さぁ、早くココ様やナッツ様達を・・・」

ルミナスはブラック達を見ると、ブラック達は首を下に降る。

ルミナス「皆・・・分かりました。必ず帰って来て下さい！」

ルミナスはポルン達を連れて、飛行態になったシロップの所に行く。

アポロガイスト「そうはさせん。」

アポロガイストはマグナムショットをルミナスに向けて発射しようとしたが、ベリー、パイン、パッションがアポロガイストを抑える。

ベリー「それはこっちの台詞よ！」

パイン「ルミナスやシフォンちゃん達には、指一本触れさせない！」

パッション「ルミナス！早く行って！」

ルミナス「皆・・・くっ！」

ルミナスはシロップに乗り、ココ達はミラクルライトの力を使うとワームホールが現れ、ルミナスとココ達はワームホールに入った。

シャドームーン「逃げたか。」

ジェネラルシャドウ「まぁいいだろう。光の園のクイーンを後で捕まえればいい。」

ジャーク将軍「それもそうだな。」

マリン「それ、ホントに出来るの？」

ヒルカメレオン「何？」

サンシャイン「ルミナスを甘く見ないで。」

ムーンライト「ルミナスなら他の仲間を探してる頃よ。」

ジェネラルシャドウ「仲間だと？」

リズム「そうよ。ルミナスならきっと、私達と一緒に戦った仲間の所に。」

ブラック「皆、行くよ！」

全員「うん！」

アポロガイスト「おもしろい。まとめてかかってこい！」

ブラック達は走ると、ジェネラルシャドウ達は武器を構え、ブラック達はジェネラルシャドウ達とぶつかり合う。ジェネラルシャドウ達は何の目的でプリキュアの大いなる力を狙うのか！？今此処に、海賊戦隊ゴーカイジャーとプリキュアオールスターズ史上最大の危

機が始まろうとした。

海賊戦隊ゴーカイジャーＶＳプリキュアオールスターズ２　プリキュアが敵!?世界の破壊者降臨!

プロローグ（後書き）

次回はゴーカイジャー登場です。

第1話：世界の破壊者、現る！

ゴーカイジャーの世界

マーベラス「・・・」

マーベラス達は少し体を休んでいた。マーベラス達は元の世界に戻ってからハリケンジャー、ジェットマン、ライブマン、オーレンジャーの大いなる力を手に入れた。そしてハカセは、オーレンジャーの大いなる力でオーレバズーカに似た新しい武器・ゴーカイガレオンバスターが完成した。

ルカ「珍しいわね、マーベラスが落ち着いてるなんて・・・」

確かにマーベラスなら落ち着いていなかったが、今日は意外に落ち着いていた。

鎧「どうしたんですかマーベラスさん?何かあったのですか?」

マーベラス「別に・・・」

ジョー「もしかしたら、バスコの事か?」

マーベラス「違う。ただ・・・」

アイム「ただ?」

マーベラス「嫌な予感がするんだ。別世界で一緒に戦ったあいつ等が地球征服にする事を。」

ハカセ「え?」

鎧「マーベラスさん、別の世界で一緒に戦ったあいつ等ってまさか・・・」

ジョー「俺達と一緒にデスキングを倒したプリキュア達の事か?」

マーベラス達は以前、バスコの罠でプリキュアの世界に迷っていた。プリキュアの世界では世界を闇に変えようとしたジュダ。ジュダはゴーカイレッドに敗北したが、ジュダは最後の力でデスキングを誕生させた。マーベラス達はプリキュアの大いなる力を手に入れ、プリキュアと一緒にデスキングを倒した。世界が平和になってから元の世界に戻った。

ルカ「地球征服?あいつ等がそんな事する訳ないじゃん。」

アイム「そうですよ。プリキュアさんは、地球や皆の笑顔をこれまで守って来ましたのですよ。」

マーベラス「だといいんだがな。おい鳥、お宝ナビゲートだ。」

ナビィ「はいはい、レッツお宝ナビゲート!」

ナビィは飛び回ると、壁にゴッチンと頭に叩く。

ナビィ「な、何だろう?今日の占い、変だよ!」

ルカ「何が変なの?」

ナビィ「一つ目は『共に戦った少女達が悪の組織と手を組んで世界征服をする気だよ！』という占いだけど？」

ジョー「確かに変過ぎる。」

鎧「師匠達が世界征服だなんてする訳ないですよ！ナビィさん、どういう事ですか！？」

ハカセ「鎧落ち着いて！」

鎧「あ、すいません。」

ナビィ「二つ目は『海賊のような少女がこの世界にやって来るよ！』だけど？」

アイム「海賊のような少女？」

マーベラス「・・・」

ナビィ「三つ目は『か～めんライダーがこの世界にやって来る！』という物だよ。」

ルカ「か～めんライダー？」

ジョー「鎧、知ってるか？」

鎧「すいません、落ち着きがなくて中々喋れません。」

マーベラス「先ず、か～めんライダーという奴を探すか。」

マーベラス達は外に出た。

その頃、街には写真館のような店があった。写真館の中にはピンク色みたいな二眼レフのトイカメラをぶらさがってる青年、門矢士と『夏海の世界』からやって来た光夏海と『クウガの世界』からやって来た小野寺ユウスケと『ディエンドの世界』からやって来た海東大樹がいた。彼等はスーパーショッカーを倒した後、士達は新たなる旅へ行く事になった。

ユウスケ「それにしても、今度は何の世界だ?」

背景は海賊のような少女と空はゴーカイガレオンが飛んでる事と21人の少女が怪人達と一緒にいる背景だった。

士「さぁな。」

海東「・・・」

海東は海賊のような少女をずっと見つめていた。

夏海「大樹さん!どうしたのですか?」

海東「いや、何でもない。それより外に出よう。」

海東は外に出る。

ユウスケ「どうしたんだ?海東の奴。」

士「まぁあいつもこんな表情するだろ。とっとと行くぞ。」

士達は外に出た。

その頃、空からワームホールが現れ、中からルミナスとココ達がやって来た。

シロップ「やっとゴーカイジャーの世界に着いたロプ!」

ルミナス「此処が・・・」

すると後ろから炎の光弾がシロップ達に向けて発射した。

フラッピ「な、何ラピ!?」

ワームホールから、オウムヤミーが現れた。

チョッピ「こっちに来たチョピ！」

タルト「シロップはん！フルスピードで振り切るんや！」

シロップ「言われなくても分かってるロプ！」

シロップはフルスピードを出し、オウムヤミーから振り切ろうとした。しかしオウムヤミーは炎の光弾を撃ちまくる。シロップは全部避けるが・・・

ルルン「ルル！？」

ポルン「あ、ルルン！」

ルルンはシロップのフルスピードが激し過ぎたせいでルルンは落ちた。それを見たポルンも落ちる。

ルミナス「ポルン！ルルン！」

ルミナスもポルンとルルンを助けるために落ちる。

メップル「ルミナス！」

シプレ「あ！シロップ危ないですぅ！」

シロップ「ロプ！？」

シロップはオウムヤミーの炎の光弾が羽に直撃した。

シロップ「しまったロプ！」

すると緑色の雷がシロップ達を捕らえた。

ハミィ「あ、あれは！」

ハミィは下を見ると、ビルの上にシャドームーンが乗っていた。

シフォン「プリップー！」

シフォンは超能力を使うが、反応はなかった。

シャドームーン「ムダだ。超能力では逃がれないぞ。」

ココ「ルミナス・・・」

シャドームーン「一緒に連れてって貰おう。」

ナッツ「・・・」

シャドームーンと捕らえた妖精達は消えた。

第2話：再会

ルミナス「ハァ、ハァ・・・」

ルミナスは落ちかけそうになったポルンとルルンを助け、地面に着陸した後に逃げようとしたが、後ろからカメバズーカと沢山のショッカー戦闘員達が現れ、ルミナスを襲う。

カメバズーカ「もう逃げられないぞ！ハァッ！」

カメバズーカは後ろにあるバズーカをルミナスに向けて攻撃したが、ルミナスは一足早く避け、ルミナスはカメバズーカとショッカー戦闘員達を振り切るため、逃げた。

カメバズーカ「逃がすな！追え！」

ショッカー戦闘員「イーッ！」

カメバズーカとショッカー戦闘員達はルミナスを追う。

ルミナス（ブラック、ホワイト！）

その頃、大いなる力を探しているマーベラス達は・・・

マーベラス「・・・」

ジョー「マーベラス、まだ気になるのか？ナビィが言ってたあの占いを・・・」

マーベラス「ったりめーだ。ひかり達が世界征服だなんてする訳ねぇ。俺はあいつを信じてる。」

ルカ「珍しいね、マーベラスがそんな事言うなんて・・・」

確かにマーベラスならそんな事言わないはずだった。なのに今日のマーベラスはひかりが世界征服をする事はないと信じていた。

ハカセ「鎧、落ち着いた？」

鎧「すいません。まだ落ち着きが・・・」

アイム「鎧さん、プリキュアの皆さんなら絶対大丈夫です。あの子達がプリキュアならきっと大丈夫です。信じましょう。」

鎧「アイムさん・・・」

すると街に爆発が起こった。

全員「ん？」

ジョー「ザンギャックか？」

ハカセ「今度は何をする気なんだ?」

アイム「とにかく行きましょう。」

マーベラス達は爆発した所へ向かった。

その頃、この世界のありかを探すために外に出た士達は・・・

夏海「今度は何の世界でしょうか?」

ユウスケ「何か此処懐かしいような気が・・・」

士「で、俺の役割は・・・なっ!?」

ユウスケ「え、士の服が・・・」

夏海「変わってません!」

確かに今までの世界に到着した後、役割の服を変わっていたが、今回は変わらなかった。

士「どういう事だ？」

海東「それより士、ライダーのいない世界って知ってる？」

士「は？」

ライダーのいない世界とは、以前士達はシンケンジャーの世界に旅をした事があった。

士「知ってるがそれが・・・まさか！」

海東「そう、この世界もライダーのいない世界だ。」

夏海「え？」

海東の言葉で夏海とユウスケは驚く。

ユウスケ「じゃあ此処は、シンケンジャーの世界なのか！」

海東「いや、シンケンジャーの世界に似てるけどシンケンジャーとは少し違う世界だよ。」

夏海「そんな・・・」

士「やれやれ、またライダーのいない世界か。」

すると、街に爆発が起こった。

ユウスケ「な、何だ？」

士「ライダーはいなくても怪人が存在してるって事は確かだな。行くぞ夏海、ユウスケ、海東。」

夏海「はい！」

ユウスケ「分かった！」

海東「僕に命令するな。何て言ってる場合じゃ・・・」

すると海東は何かを感じ、海東は周りの周辺を見る。

海東（この感覚は、まさか・・・）

士「海東、早くしないとお前を置いてくぞ！」

海東「今行く！」

士達は爆発した所へ向かった。すると木の陰に隠れて士達を見た男がいた。その男の名は鳴滝。又の名はゾル大佐。鳴滝はいわゆる変態・・・

鳴滝「変態言うな！おのれディケイド、まさかライダーの存在しない世界にライダーを存在してするつもりか？だがディケイド、此処がお前の最後の旅となる。」

鳴滝は灰色のカーテンに入ると、灰色のカーテンに入った鳴滝は消えた。

その頃、ルミナスは・・・

ルミナス「ハァ、ハァ・・・」

カメバズーカ「え～いちょこまかと！喰らえー！」

カメバズーカはバズーカをルミナスに向けて連続発射する。ルミナスは逃げるが、最後の一発に足が直撃すると、バランスを崩れ、倒れ込む。ルミナスの足から血が流れ込んでいた。

ルミナス「うぅ～・・・」

ルルン「ルミナス！」

ポルン「酷いポポ！どうしてそんな事をするんだポポ！」

カメバズーカ「悪いな。これもあの方からの命令だからな。さぁおとなしくプリキュアの大いなる力を渡せ！」

ルミナス「誰が貴方なんかと！」

カメバズーカ「ほぅ、そんなに死にたいか？ならば死ね！」

カメバズーカはルミナスに向けてバズーカを発射しようとした。

ルミナス（ブラック、ホワイト、マーベラスさん！）

ルミナスはもうダメかと思ったその時！

カメバズーカ「ぐおっ！ぐわー！」

カメバズーカの体から火花が沢山散るとカメバズーカは倒れた。

カメバズーカ「だ、誰だ！？」

ルミナス「ん、あ～・・・」

ルミナスは後ろに振り向くと、ゴーカイガンとゴーカイスピアー・ガンモードを持ったマーベラス達がいた。

ルミナス「マーベラスさん！」

ハカセ「え、君ってまさか・・・ひかりちゃん！？」

ルカ「え、どういう事？」

マーベラスはルミナスの所に駆け寄る。

マーベラス「ひかり、よく頑張ったな。」

マーベラスはルミナスの頭を撫でる。

マーベラス「後は俺達に任せろ。」

ルミナス「はい！」

マーベラス達はカメバズーカの前に立つ。

カメバズーカ「な、何だ貴様等は！？」

マーベラス「こっちが聞きたい。お前、ザンギャックか？」

カメバズーカ「は？ザンギャック？違うな。俺はハイパーショッカーの部下・カメバズーカだ！」

アイム「ハイパーショッカー？」

ルカ「何かとんでもない奴が出て来ちゃったね。」

ハカセ「それに何だあの骸骨な黒い服を着た人達は？」

鎧「あれ、ショッカーって確か・・・」

マーベラス「とっとと片を付けるぞ。」

丁度士達がやって来た。

夏海「あの人達は？」

ユウスケ「しかもあれ、カメバズーカじゃないか。何でこの世界に？」

士「スーパーショッカーの仕業に違いないだろ。」

海東「ん？」

マーベラス達はレンジャーキーとモバイレーツを出し、鎧はレンジャーキーとゴーカイセルラーを出してからレンジャーキーをゴーカイセルラーに入れる。

「豪快チェンジ！」

マーベラス達はレンジャーキーをモバイレーツを前に出し、鎧はリダイアルを押してから前に出すと・・・

ゴーカイジャー！

マーベラス達はゴーカイジャーの姿に変わった。

ユウスケ「シンケンジャー・・・じゃない！」

夏海「何ですかあれ？」

「ゴーカイレッド。」

「ゴーカイブルー。」

「ゴーカイイエロー。」

「ゴーカイグリーン。」

「ゴーカイピンク。」

「ゴーカイ・・・シルバー！」

「海賊戦隊・・・」

「ゴーカイジャー！」

ポルン「行けー！ゴーカイジャー！」

ルルン「頑張ってゴーカイジャー！」

士「ゴーカイジャーの世界か。」

士はゴーカイジャーの世界と語った。

第3話：ディケイド参上！

ゴーカイレッド「派手に行くぜ！」

ゴーカイレッドは台詞を言うとゴーカイジャーはゴーカイガンを撃ちまくる。

カメバズーカ「あたたた！この野郎やったな！やれー！」

ショッカー戦闘員「イーッ！」

ショッカー戦闘員はゴーカイジャーに突っ込んで行く。

ゴーカイレッド「いきなりだがこれで行くぞ。」

ゴーカイピンク「はい。」

ゴーカイジャーはレンジャーバックルからレンジャーキーを出す。

「豪快チェンジ！」

レンジャーキーをモバイレーツにさしてからモバイレーツを前に出すと・・・

ゴ～レンジャー！

ゴーカイシルバー以外のゴーカイジャーはゴレンジャーに変わった。

それを見た士達は・・・

ユウスケ「変わった！」

夏海「大樹さん、あれは何ですか？」

海東「あれは地球で初めて誕生した最初のスーパー戦隊、秘密戦隊ゴレンジャーさ。ゴーカイジャーはレンジャーキーを使ってゴレンジャーや他のスーパー戦隊になれるのさ。」

ユウスケ「じゃああいつ等はシンケンジャーになれるのか？」

海東「勿論。」

士「成る程。まるで俺のようだな。」

ゴーカイシルバー「あの～、俺の立ち場は・・・」

アカレンジャー「お前は他の奴に変身しろ。」

ゴーカイシルバー「ハハ、やっぱそうですよね。じゃあ俺これで行きます。豪快チェンジ！」

ゴーカイシルバーはレンジャーキーとゴーカイセルラーを出し、レンジャーキーをゴーカイセルラーに入れ、リダイアルを押して前に出すと・・・

ゴーオンウィングス！

ゴーカイシルバーからゴーオンゴールドに変わった。

カメバズーカ「それがどうした！？」

アカレンジャー「フン、アイム。ゴレンジャーハリケーンだ！」

モモレンジャー「はい。ゴレンジャーハリケーン、参ります。」

モモレンジャーはアメリカンフットボールのような物を出す。

アカレンジャー「よし、ゴレンジャーハリケーン・・・ショッカー戦闘員！」

アカレンジャーがそう言うとモモレンジャー以外のゴレンジャーは走った。

モモレンジャー「ハカセさん！」

モモレンジャーはミドレンジャーにパスをする。

ミドレンジャー「任せて、ルカ！」

ミドレンジャーはキレンジャーに向けて蹴るとキレンジャーにパスをする。

キレンジャー「ＯＫ！ジョー！」

キレンジャーはアオレンジャーに向けてヘディングでアオレンジャーにパスをする。

アオレンジャー「フッ！」

アオレンジャーはキャッチすると前に出す。

アオレンジャー「マーベラス！」

アオレンジャーがアカレンジャーを呼ぶとアカレンジャーは走ってからジャンプをする。

アカレンジャー「エンドボール！」

アカレンジャーはアメリカンフットボールを蹴ると、物凄いスピードで飛び、落ちるとショッカー戦闘員に変わった。

ショッカー戦闘員（ゴレンジャーハリケーン）「イー！」

ショッカー戦闘員A「イ？」

ショッカー戦闘員B「イイ、イ？」

ショッカー戦闘員達は一体何が起こったのかは訳が分からなかった。ゴレンジャーハリケーンのショッカー戦闘員は口を開くと、吸収するかのように沢山のショッカー戦闘員達は吸い込まれた。吸い込むが終わるとゴレンジャーハリケーンのショッカー戦闘員は消えた。

ゴーオンゴールド「よし、俺も！アテンション、ウィングブースター！」

ゴーオンゴールドはウィングブースターを構えると炎神オーラが現れた。

ゴーオンゴールド「ブースターフライト、ゴーオン！」

ゴーオンゴールドはブースターフライトでショッカー戦闘員を全滅させた。

夏海「凄い。」

士はトイカメラで写真を撮る。

士「それだったら俺達の出る幕はないな。」

ゴレンジャーとゴーオンゴールドはゴーカイジャーの姿に戻る。

カメバズーカ「え、ちょっタンマ！」

ゴーカイレッド「よし、止めだ。」

ゴーカイジャーはレンジャーキーとゴーカイサーベルを出してからレンジャーキーをゴーカイサーベルにさす。

ファ～イナルウェイ～ブ！

ゴーカイジャーは必殺技を発動する。

カメバズーカ「ちょっ、やめてー！」

ゴーカイジャー「ゴーカイスラッシュ！」

ゴーカイジャーの必殺技・ゴーカイスラッシュで決める。しかし・・・

カメバズーカ「嘘だよ～ん♪」

カメバズーカは甲羅になるとゴーカイスラッシュが弾き返した。

ゴーカイブルー「何!?」

ゴーカイイエロー「弾き返した!?」

ゴーカイシルバー「だったら久し振りの必殺技はどうだ!」

ゴーカイシルバーはレンジャーキーとゴーカイスピアー・ガンモードを出してからレンジャーキーをゴーカイスピアー・ガンモードにさす。

ファ～イナルウェイ～ブ!

ゴーカイシルバーは必殺技を発動する。

ゴーカイシルバー「ゴーカイ・・・スーパーノヴァ!」

ゴーカイシルバーは久し振りの必殺技・ゴーカイスーパーノヴァで決めようとした。しかし・・・

カメバズーカ「同じ手を喰らうか!」

カメバズーカは再び甲羅になるとゴーカイシルバーの必殺技を弾き返した。

ゴーカイシルバー「そんな!」

ゴーカイレッド「仕方ない、ゴーカイガレオンバスターだ!」

ゴーカイジャーはレンジャーバックルを押すと、光の粒が現れ、その粒は一つになるとゴーカイガレオンバスターとなった。

カメバズーカ「させるか！」

甲羅になったカメバズーカは体当たりでゴーカイジャーの必殺技を妨害する。

「うわあー！」

カメバズーカ「まだまだ！」

カメバズーカは再び体当たりでゴーカイジャーを喰らわせる。

ゴーカイイエロー「あ～もう、これじゃあゴーカイガレオンバスターが使えないじゃない！」

ゴーカイグリーン「何とかあいつの動きを止めないと・・・」

その頃、フラフラ状態のルミナスはゴーカイジャーを援護する為、必殺技の準備をする。

ルミナス「ルミナス！ハーティエル・・・」

ダメージを喰らい過ぎたせいかルミナスはバランスを崩すと、必殺技は消えた。

ポルン「ルミナス！大丈夫ポポ？」

ルルン「大丈夫ルル？」

ポルンとルルンはルミナスの所に駆け寄る。

ルミナス「ダメ、力が出ない。これじゃあマーベラスさんや皆を、助けられない！」

ルミナスは涙を流す。

ポルン「ルミナス・・・」

カメバズーカに苦戦してるゴーカイジャーをずっと見てる士達は・・・

ユウスケ「士！」

士「ハァ～、こういう時は俺の出番かよ？しょうがない。」

士はディケイドライバーを出してからディケイドライバーを腰にかけると、ベルトが装着する。バックルの両側にサイドハンドルの両方を引くと、バックルが９０度に回転した。次に左腰にあるライドブッカーからディケイドのカードを出す。

士「変身！」

士はカードを裏返してからカードをバックルの中に入れてから・・・

カメンライド、ディケイド！

次にハンドルを押す事によって士はディケイドに変身した。

ディケイド「ハアッ！」

ディケイドはカメバズーカの前に立つ。

ゴーカイブルー「何だあれは？」

ゴーカイシルバー「あれ、あの人確か・・・」

カメバズーカ「き、貴様はディケイド！何故この世界に！？」

ゴーカイピンク「ディケイド？」

ディケイド「それはこっちが聞きたい。何故スーパーショッカーがゴーカイジャーの世界にいる？」

カメバズーカ「残念だがディケイド。我々はスーパーショッカーではない！新しく生まれ変わったハイパーショッカーだ！」

ディケイド「ハイパーショッカーだと？」

カメバズーカ「世界の破壊者ディケイド！貴様は俺が・・・」

ディケイドはライドブッカーを手に取ってからガンモードにし、カメバズーカが話している最中に向けて発射した。

カメバズーカ「あたっ！おい！俺の話を聞け！」

ディケイド「バーカ。お前が話してると、こっちは迷惑なんだよ。」

カメバズーカ「この野郎！許さんぞ！」

カメバズーカは甲羅になるとディケイドに襲いかかる。ディケイドはライドブッカーからライドカードを出し、次にサイドハンドルを引くとバックルが９０度に回転した。

ディケイド「そんな甲羅なんか、吹き飛ばしてやる。」

カードを裏返してからライドカードをバックルに入れてから・・・

カメンライド、キバ！

サイドハンドルを押すとバックルは回転すると、ディケイドの姿から仮面ライダーキバに変わった。

ゴーカイグリーン「え、変わった！？」

次にＤＣＤキバはライドブッカーからライドカードを出し、カードを裏返してからバックルに入れる。

フォームライド、キバ！ドッガ！

サイドハンドルを押すとバックルは回転し、ＤＣＤキバはドッガフォームに変わると、手からドッガハンマーが現れた。

カメバズーカ「喰らえー！」

甲羅になったカメバズーカはＤＣＤキバに突撃する。

ゴーカイピンク「危ない！」

ＤＣＤキバ「てやー！」

ＤＣＤキバは何と野球のようにドッカハンマーでカメバズーカを吹っ飛ばした。

カメバズーカ「あああああああ！」

カメバズーカは壁に衝突！カメバズーカはフラフラになった。

ＤＣＤキバ「おい、さっさと決めろ。」

ゴーカイレッド「何だがよく分かんねぇが、助かるぜ。よし、止めだ！」

ゴーカイレッドはゴーカイガレオンバスターを構えた。ゴーカイジャーはレンジャーキーを出してから左側にゴーカイブルーとゴーカイイエローのレンジャーキーをさし、右側にゴーカイグリーンとゴーカイピンクのレンジャーキーをさし、真ん中にゴーカイレッドのレンジャーキーをさすと、四つのレンジャーキーが上に上がる。

レ～ッドチャージ！

カメバズーカ「あ、あぁ！」

「ゴーカイガレオンバスター！」

ラ～イジングストラ～イク！

ゴーカイバスターから発射されたゴーカイガレオン型エネルギー弾

がカメバズーカに直撃すると、カメバズーカの体全体から沢山の火花が散る。

カメバズーカ「そんな・・・この俺がー！」

カメバズーカは倒れると、カメバズーカは爆発した。

ゴーカイレッド「あ、ひかり！」

ゴーカイジャーは変身を解け、マーベラスはルミナスの所に駆け寄る。

マーベラス「大丈夫か？」

ルミナスはひかりに戻る。

ひかり「はい。あの、ありがとうございます。」

マーベラス「気にすんな。俺はただ、気にいらねぇ奴を倒しただけだ。」

ひかり「それでも、ありがとうございます。」

マーベラス「だから・・・ん？」

するとマーベラスとひかりの目が合った。

ひかり「マーベラスさん・・・」

マーベラス「ひかり・・・」

それを見たポルンとルルンは・・・

ポルン「何かこの感じ、懐かしいポポ。」

ルルン「懐かしいルル。」

ジョーはディケイドの方に振り向く。

ジョー「あんた、名は?」

ディケイド「俺か?俺は通りすがりの仮面ライダー。それだけだ。」

そう言うとディケイドは去った。

ルカ「ディケイド・・・か。」

アイム「取り敢えず、ガレオンに戻ってからひかりさんの手当てを・・・」

するとマーベラス達の近くに足音が聞こえた。その足音をした方へ振り向くと、服がボロボロで左腕から血が流れていたキュアビートがいた。

鎧「エレンちゃん!」

ビート「うっ!」

ビートは倒れると、エレンの姿に戻る。マーベラス達はエレンの所に駆け寄る。

ひかり「エレンさん！大丈夫ですか？」

エレン「えぇ、何とか・・・・」

アイム「酷いケガ、一体何があったのですか！？」

エレン「ハァ・・・皆、落ち着いて私の話を聞いて。響達が・・・」

ひかり「響さん達が、どうかしたのですか！？」

エレン「響達が、ハイパーショッカーに・・・攫われた。」

全員「えっ！？」

マーベラス達は驚きが隠せなかった。

第４話：ハイパーショッカー（前書き）

今回はゴーカイジャーとひかりは出ません。

第４話：ハイパーショッカー

ゴーカイジャーの世界

士達は光写真館に戻るが、夏海の祖父、光栄二郎の姿はなかった。

夏海「おじいちゃん？おじいちゃん！」

ユウスケ「まさかゴーカイジャーの世界にスーパーショッカーが・・・」

士「いや、あいつ等はハイパーショッカーと言ったそうだ。スーパーショッカーよりやばい組織かもな。」

ユウスケ「あいつ等、そんなに士を消したいのか？だけど士は・・・」

夏海「士君！見て下さい。背景が・・・」

士「ん、背景がどうかし・・・なっ！？」

士達は背景を見ると士達が見た背景とは少し変わっていた。その背景は、街内で十字架に捕われた士達とマーベラス達、そして２１人の少女が十字架の前に立つ姿だった。

ユウスケ「背景が・・・変わってる！？」

士「どういう事だ？この世界の役目はまだ終わってないはずだ！」

確かに役目が終われば次の世界へ行く時に背景は変わるはずだった。
そう、士達は一度も役目を終わらず次の世界に行く事はなかった。

海東「要するに、ゴーカイジャーの世界を旅する事をやめて危機にさらされている世界へ行けって事か？」

？？？「その通りです。」

すると士達がいた写真館の場所が宇宙の場所に変わった。士達は後ろに振り向くと、そこには青年がいた。

士「説明しろ。何で役目が終わってないのに別の世界に行かなければならない？」

？？？「今から説明します。」

その頃、プリキュアの世界ではハイパーショッカーのアジトがあった。アジトの中には死神博士、地獄大使、ブラック将軍、アポロガイスト、ジェネラルシャドウ、シャドームーン、ジャーク将軍、そして沢山のショッカー戦闘員がいた。

ショッカー戦闘員「イッイーッ！」

そこにショッカー戦闘員が慌ててアジトに帰って来た。

ブラック将軍「どうじゃ？光の園のクイーンは見つけたか？」

ショッカー戦闘員「イッイッ。」

ショッカー戦闘員はブラック将軍の耳元に近付いてからディケイドが現れた事を話した。

ブラック将軍「何じゃと！？ディケイドが現れた！？」

それを聞いたジェネラルシャドウ達は驚く。

ショッカー戦闘員「イッイッ！」

ブラック将軍「まだ他にあるのか？」

ショッカー戦闘員はまたブラック将軍の耳元に近付いてからゴーカイジャーに邪魔された事を話した。

ブラック将軍「何、ゴーカイジャー？そんな奴等に邪魔されたのか？」

ショッカー戦闘員「イーッ！」

死神博士「ゴーカイジャー・・・」

死神博士は何故かゴーカイジャーの事を知っていた。

シャドームーン「知ってるのか？」

死神博士「あぁ、黒十字王から聞いてな。ゴーカイジャーは３４のスーパー戦隊の力を使って宇宙帝国ザンギャックと戦っている。」

アポロガイスト「それだけではない。ゴーカイジャーは大いなる力という物を探している。大いなる力を手に入れれば使う事が出来る。」

ジェネラルシャドウ「ほぅ？という事はライダーよりも凄い奴等がいるという事か？」

地獄大使「ならばディケイドよりゴーカイジャーという奴等を始末するべきでは？」

死神博士「いや、奴等を倒すのはまだ早い。」

ジャーク将軍「何故だ？」

死神博士「例えゴーカイジャーを倒してもディケイドがいる。ディケイドとゴーカイジャーと手を組めばこちらは不利となる。だがこういう時はあいつをゴーカイジャーの世界に送ったのだ。」

ジャーク将軍「あいつ？」

ブラック将軍「死神博士、あいつとはまさか・・・」

死神博士「そう、今まで幸せを壊して来たあいつに化けてゴーカイジャーの世界に送った。後はあいつがゴーカイジャーとクイーンをこの世界に送ってから先にゴーカイジャーを始末してからクイーンが持ってる大いなる力を奪うだけだ。」

シャドームーン「成る程。だがディケイドはどうする？」

死神博士「ディケイドなら必ずこの世界に来る。ディケイドもゴーカイジャーと共に潰すだけだ。」

ジェネラルシャドウ「フン、ではゴーカイジャーやディケイドの最期という事か？」

死神博士「そうだ。フフ、ゴーカイジャーとクイーンをこの世界に送る事を頼んだぞ、蜂女。」

地獄大使「ではお前達も準備しろ！」

ショッカー戦闘員達「イーッ！」

ショッカー戦闘員達は『了解』のように『イーッ』と叫んだ。

第４話：ハイパーショッカー（後書き）

次回、プリキュアの世界に出発！

第5話：女神（前書き）

久々の更新でーす！今回は士達は出ません。

第5話：女神

夜の市街地

ショッカー戦闘員「イーッ！」

ショッカー戦闘員達は目の前にいる黄色い少女の前に倒れる。その少女の名はメイジャーランドの姫様でもある少女、キュアミューズ。その正体は調辺アコ。彼女はアフロディテに心配かけないように仮面で正体を隠したのだ。

ドドリー「ミューズ、あのオバサンがいないドド。」

ミューズ「え？」

ミューズはショッカー戦闘員に近付いてから胸ぐらを掴む。

ミューズ「教えて！あのオバサンは何処なの！？後、響達はどうしたの？」

ショッカー戦闘員「し、知らん！言うもんか！」

ミューズ「ハッキリ言いなさい！オバサンは何処！？」

ショッカー戦闘員「蜂女様ならゴーカイジャーの世界に行ったぜ。」

ミューズ「え？それってどういう事？」

ショッカー戦闘員「光の園のクイーンはゴーカイジャーの所に逃げ

たのは知ってるだろ?だから蜂女様は黒川エレンという奴に化けてゴーカイジャーをプリキュアの世界をおびき寄せてから、ゴーカイジャーを倒し、プリキュアの大いなる力を奪う。それがハイパーショッカーの作戦だ。」

ミューズ「何だって?ねぇ、響達は一体・・・」

ショッカー戦闘員「イーッ!」

ショッカー戦闘員の背中からサーベルのような物に刺され、倒れた。

ミューズ「ドドリー、急いでゴーカイジャーの世界へ行くよ!」

ドドリー「分かったドド!」

するとミューズの前にワームホールが現れ、ミューズはワームホールに入ると、ワームホールは消えた。ミューズは急いでゴーカイジャーの世界へ行く事に。

ミューズ(早く急がないと、ゴーカイジャーが危ない!)

ゴーカイジャーの世界

マーベラス達は一旦ガレオンに戻ってから怪我を負ったひかりとエレンの手当てをした。

アイム「大丈夫ですか？」

ひかり「あ、はい。」

エレン「・・・」

エレンはマーベラス達を見た。

エレン（フ～ン、これが海賊戦隊ゴーカイジャーか。死神博士によると色んなスーパー戦隊になる事やスーパー戦隊の大いなる力を使う事が出来るようね。ライダーよりしつこい奴のようね。）

ルカ「どうかしたの？」

エレン「ううん、何でもないわ。ありがとう、ルカ。」

ルカ「それ程でもないって。ん？」

ルカはエレンの首元にネックレスがかけている事に気付く。

ルカ「ねぇ、このネックレスは何？結構綺麗じゃない。」

エレン「え？あ、これは・・・」

ハカセ「ルカ、ネックレスよりひかりちゃんの説明を・・・」

ルカ「んな事分かってるよ。言われなくても・・・」

ジョー「・・・」

ジョーはエレンをずっと見ていた。

鎧「どうかしたんですか?ジョーさん。」

ジョー「いや・・・それよりコーヒーを滝れるから待ってろ。」

そう言うとジョーは何処かへ行った。

マーベラス「で、何でなぎさ達はハイパーショッカーにさらわれた?」

ナビィ「説明してくれない?」

ひかり「あ、その・・・」

ポルン「説明するポポ。ポルン達はいつも通り平和に暮らしていたポポ。」

なぎさ達がハイパーショッカーと戦う前・・・

なぎさ「今日も平和だね。」

ほのか「うん、そうね。」

今日は太陽が照らしていた。なぎさ達は学校が休みの為、タコカフェでたこ焼きを美味しくいただいていた。

なぎさ「やっぱたこ焼きは最高！」

メップル「な～ぎさ～。」

するとハートフルコミューンからメップルが出て来た。

メップル「今日は平和だからと言って何呑気でたこ焼き食ってるんだメポ？」

なぎさ「いいじゃん。私の勝手だから。」

メップル「よくないメポ。明日は宿題をやるって言ったのに宿題をやってないメポ。そんなんで大学を卒業出来るのかメポ？」

なぎさ「後で宿題をやればいいじゃん。ほのかは・・・」

ほのか「出かける前にもう宿題やったよ？」

なぎさ「え？」

なぎさは唖然とした。

ミップル「ほのかの言ってる事はホントミポ。」

なぎさ「あ、そうなんだ。」

メップル「ほ～らなぎさも早くしないと大学を卒業出来ないメポ～。」

なぎさ「うっさい！あ、そういえばひかりは？」

ほのか「あれ？変ね。もう少ししたら来るはずなのに・・・」

確かに時間がたてばひかりは来るはずだったが、ひかりは来なかった。しかも待つだけで３０分過ぎていた。

なぎさ「どうしたんだろう？」

メップル「なぎさ！何か嫌な予感がするメポ！」

ほのか「え？」

ミップル「邪悪な力を感じるミポ！」

すると・・・

？？？「ハハハハハ！」

奇妙の笑い声が聞こえると空が暗くなった。

ほのか「な、何！？」

？？？「知りたいかね？」

なぎさ「だ、誰なの！？何処にいるの！？」

？？？「君達の後ろにいるよ。」

二人は後ろに振り向くと、イカのような怪人がいた。

なぎさ「イ、イカ！？」

ほのか「貴方、何者！？」

？？？「ハハハ！俺はハイパーショッカーの幹部・イカデ、ビールだ！」

なぎさ「イカで・・・」

ほのか「ビール？」

二人は唖然としながら首を傾けた。

イカデビル「それより彼女の居場所を知りたいかい？」

なぎさ「当ったり前じゃない！」

ほのか「ひかりさんに何をしたの！？」

イカデビル「連いてくれば分かるさ。生まれる前の世界に・・・」

なぎさ「は？」

二人はイカデビルが何を言ってるのか全く分からなかった。

ほのか「何を言ってるの？」

メップル「なぎさ、早く変身するメポ！」

なぎさ「ほのか。」

ほのか「うん。」

二人はハートフルコミューンを使い、二人は手を繋いでから二人は手を空にあげる。

「デュアル・オーロラウェーブ！」

なぎさとほのかはプリキュアの姿に変わった。

「光の使者、キュアブラック！」

「光の使者、キュアホワイト！」

「ふたりはプリキュア！」

「闇の力の僕達よ！」

「とっととお家に帰りなさい！」

イカデビル「待っていたぞ、この時を！出でよ、ショッカーライト

！」

イカデビルの右手にミラクルライトのようなアイテムが出た。ライトの矢先には鷲が付いていた。

ブラック「ショッカーライト？」

ホワイト「ミップル、知ってる？」

ミップル「知らないミポ！あんなの初めて見るミポ！」

メップル「物凄いエネルギーを感じるメポ！」

イカデビル「ハァー！」

ショッカーライトが光ると物凄い光でブラックとホワイトを包む。

ブラック「な、何よこの光！？」

ホワイト「眩しい！」

光が消えると場所が変わっていた。二人はこの場所を知っていた。二人がいる場所は・・・遊園地。７年前、なぎさとほのかが初めてプリキュアに変身した場所だった。

ブラック「何で私達、遊園地に？」

ホワイト「何が一体、どうなってるの？」

？？？「お～い！」

そこに、ルミナスやブルーム達がやって来た。

ブラック「ルミナス！無事だったんだね！」

ルミナス「はい！でも何で遊園地に？」

ブラック「私達、何か変なイカと戦おうとしたらショッカーライトが光っててそれから・・・」

ドリーム「え、ブラックもなの？」

ブラック「え？だとしたら皆も・・・」

？？？「ハハハハハ！ハハハハハ！」

また奇妙な声が聞こえるとブラック達は警戒する。ブラックは上を振り向くと何かの光弾がブラック達に襲いかかり、ブラック達は悲鳴をあげ、ブラック達は倒れる。

メロディ「な、何？」

するとイカデビルが遊園地に現れた。

イカデビル「ハハハハ！ようこそ！プリキュアが誕生する前の世界へ！」

ルージュ「プリキュアが誕生する前の世界？」

アクア「どういう事！？」

？？？「話せば分かるさ。」

そこに、ガラガランダとヒルカメレオンとアポロガイストとジェネラルシャドウとシャドームーンとジャーク将軍が現れた。

パッション「貴方達は誰！？」

ジェネラルシャドウ「我々はハイパーショッカーだ。」

サンシャイン「やっぱり・・・貴方達の目的は何なの！？」

ジャーク将軍「フフフ、さぁ？」

ムーンライト「・・・」

ムーンライトはシャドームーンを見つめていた。

シャドームーン（ゆり・・・）

ムーンライト「貴方達の目的は何なのか知らないけど貴方達を倒すわ！」

シャドームーン「ほぅ？ならやってみろ。」

アポロガイスト「プリキュアは迷惑な存在だ。此処で消えさせて貰う。」

ローズ「迷惑なのはあんた達よ！」

ブルーム「そうよ！まだ・・・」

イーグレット「もうそれ言わせないよ?」

ブルーム「ア、アハハ・・・」

ブルームは『チョココロネがまだ食べてないから!』と言いかけようとしたが、イーグレットに止められた。

ベリー「ピーチも言わせないよ。」

ルージュ&アクア「「ドリームも。」」

リズム「メロディもね。」

ホワイト「ブラックもこういうのやめてね?」

ピーチ「あ、バレてる?(汗)」

ドリーム「アハハ・・・(汗)」

メロディ「ごめん・・・(汗)」

ブラック「分かったからそこまで。」

アポロガイスト「えぇ~い!何時まで喋ってるつもりだ!?そんなに食べ物が欲しいのか!?」

イカデビル「あぁ。確かに早くしないとイカは食べたいしビールも早く飲みたいの!」

全員「は？」

全員は唖然とした。

ブロッサム「そんな事、考えてたのですか？」

ガラガランダ「イカデビル、それは後。」

イカデビル「アハハ、すんません。」

ルミナス（一体何の目的なの？）

ブラック「とにかくやるしかない！行くよ！」

全員「うん！」

ひかり「・・・」

マーベラス「それでどうしたんだ？」

ポルン「それからハイパーショッカーが強過ぎてプリキュアにも敵わなかったポポ。」

ハカセ「で、ショッカーライトって何なの？」

ルルン「ショッカーライトは知らないルル。ルルン達は初めて見たルル。」

ルカ「何それ？」

ポルン「ハイパーショッカーの目的はプリキュアの大いなる力だったポポ。だからなぎさ達はポルン達やひかりを逃がしてくれたポポ。」

ひかり「私はマーベラスさん達にこの事を伝える為に此処に来たんです。でも・・・」

鎧「でも、どうしたんですか？」

ひかり「ハイパーショッカーがゴーカイジャーの世界に現れて私達を襲ってきたんです。ポルンとルルンは何とか守ったんです。」アイム「他の妖精さん達は？」

ひかり「ハイパーショッカーに・・・」

ナビィ「そんな・・・」

ナビィは少し落ち込んでいた。

ルカ「ところでどうやってエレンは逃れたの？」

エレン「え？」

エレンの顔が焦った顔になった。

ルカ「どうかしたの？」

エレン「な、何でもないわ。（しまったー！考えるの忘れてたー！どうしよう！？）」

ジョー「エレン、コーヒーだ。」

ジョーはコーヒーをコップに入れてからエレンに渡す。

ルカ「あれ？ジョー、私のは？」

ジョー「ない。熱いうちに飲め。」

エレン「ありがとう。いただきます。」

エレンは早速コーヒーを飲んだ。

エレン「美味しい。ジョー、コーヒーありがとう。」

ジョーはゴーカイガンをエレンに向けた。

鎧「ジョーさん！何やってるんですか！？」

ジョー「お前、コーヒー熱くないのか？」

エレン「ちょっと熱いけど、このコーヒー美味しいわよ。だから何？」

ジョー「お前、猫舌じゃないのか？」

アイム「え？」

ジョー「エレンはメイジャーランドの歌姫、本当の姿はセイレーン。猫であるあいつが熱い物を飲むのは無理だ。」

ハカセ「そういえば確かに。」

ジョー「それに、エレンは昔、ネックレスをつけて他の人間や黒猫に変身する事は出来るが、今のあいつはネックレスをつけてない。ネックレスがない限り、他の人や動物に化ける事は不可能だ。」

エレン「・・・」

ジョー「さぁ答えろ、お前は誰だ？」

エレンはもう限界を感じたかのように不気味な笑いをし始めた。

エレン？「ハァ～、よくぞ私を見破った。流石は元ザンギャックとでも言った方がいいかしら？」

ひかり「貴方はまさか、ハイパーショッカー！？」

エレン？「ご名答。私も、ハイパーショッカーよ。」

するとエレンの姿が蜂のような女性の姿に変わった。

蜂女「私は偉大なるハイパーショッカー親衛隊長、蜂女。」

マーベラス「蜂女?」

ひかり「なぎささん達はどうしたの!?」

蜂女「あぁ～、あの子達?もう敗北したわ。一人残らずね。」

ひかり「そんな・・・」

ひかりはショックを受け、地面に転ぶ。

蜂女「ゴーカイジャー達をおびき寄せてから殺そうとしたけど、作戦は大失敗。でも、この世界で地獄に落ちなさい。」

マーベラス「やれるもんならやってみろ。」

蜂女「フフッ。」

鎧「許せない。絶対に許せない!」

マーベラス達はレンジャーキーとモバイレーツを出し、鎧はレンジャーキーをゴーカイセルラーに入れる。

マーベラス「鳥、ひかりを頼むぞ。」

ナビィ「分かった!」

「豪快チェンジ!」

ゴーカイジャー!

マーベラス達はゴーカイジャーに変身した。

第5話：女神（後書き）

次回、蜂女と対決！

第6話：ゴーカイジャー&ミューズVS蜂女（前書き）

今回はオリジナルプリキュア登場！

第6話：ゴーカイジャー&ミューズVS蜂女

ゴーカイジャーと蜂女は場所を変えた。場所は・・・市街地。ゴーカイレッドはゴーカイサーベルで攻撃するが、蜂女のサーベルで受け止めてからサーベルに攻撃。ゴーカイレッドは吹っ飛ぶ。するとゴーカイシルバーが蜂女に突っ込む。

ゴーカイシルバー「おりゃー！」

ゴーカイシルバーはゴーカイスピアで攻撃するが、蜂女のサーベルで受け止められた。

ゴーカイシルバー「師匠達は何処なんだ!?プリキュアの皆さんは何処に行ったんだ!?」

蜂女「ハァ～、そんなにプリキュアが心配？」

ゴーカイシルバー「当たり前だ！」

蜂女「そんなにプリキュアを救いたいなら救ってみなさい。でも、プリキュアは私達の僕になってるかもね。」

ゴーカイシルバー「え？」

ゴーカイシルバーは蜂女の言ってる事が全く分からなかった。

蜂女「フッ！」

ゴーカイシルバー「うわっ！」

ゴーカイシルバーは気を取られたせいか蜂女の攻撃を受ける。

ゴーカイブルー「鎧！」

ゴーカイジャーはゴーカイシルバーの所に駆け寄る。

ゴーカイピンク「大丈夫ですか？」

ゴーカイシルバー「はい、大丈夫です。」

蜂女「フフッ。」

ゴーカイジャーはレンジャーバックルからのレンジャーキーを出す。

ゴーカイシルバー「皆さん、拳法で行きますよ！」

ゴーカイシルバーはレンジャーキーをゴーカイセルラーに入れる。

ゴーカイレッド「よし。」

「豪快チェンジ！」

ゴーカイジャーはレンジャーキーをモバイレーツにさす。ゴーカイシルバーはリダイアルを押す。

ダ～イレンジャー！

ゴーカイシルバーはキバレンジャーに変身する。

キバレンジャー「キバレンジャー！」

ゲ～キレンジャー！

ゴーカイジャーはゲキレンジャーに変わる。

キバレンジャー「ちょっと皆さん！それゲキレンジャーですよ！」

ゲキブルー「拳法だろ？」

キバレンジャー「いや、そうですけど。」

蜂女「ほぅ？これはおもしろいわね。」

ゲキレッド「行くぞ！」

ゲキレンジャーとキバレンジャーは蜂女との激しい戦いを繰り広げる。

その頃、士達は・・・

？？？「ゴーカイジャーの世界にハイパーショッカーが現れた事は

知ってますね？」

士「あぁ。そうだがそれがどうした？」

士達と話している青年の名は、キバの世界で仮面ライダーキバとしてファンガイアと戦った青年、紅渡だ。

渡「実はハイパーショッカーがゴーカイジャーの世界に来た理由があるんです。」

ユウスケ「来た理由って？」

渡「ハイパーショッカーは最初にプリキュアの世界に現れ、プリキュア達はハイパーショッカーと戦いますが余りの強さで敗北しかけようとしたんです。」

海東「プリキュアの世界・・・」

海東は知っていたかのように小さい言葉で喋る。

渡「ですが、プリキュアは大いなる力を持ってる光の園のクイーンをゴーカイジャーの世界へ逃したんです。」

夏海「大いなる力？」

海東「恐らくハイパーショッカーの目的は、プリキュアの大いなる力を奪う事・・・だろ？」

渡「はい。」

士「一体何の為に？」

渡「それは分かりません。ですが、プリキュアの世界が危機にさらされているのは確実です。だから・・・」

士「世界を救う為にプリキュアの世界へ行けって事か？」

渡「そうです。だからお願いします。」

士「分かった。ゴーカイジャーの世界を旅するのはやめてプリキュアの世界へ行かせて貰うぞ。」

渡「そのつもりです。後、ゴーカイジャーも頼みますよ。」

夏海「え、それって・・・」

すると何かが光り出すと、宇宙の場所が光写真館の場所に変わった。

？？？「ちょっと夏海～。栄ちゃん見なかった～？」

すると蝙蝠のような小っちゃいのがやって来た。蝙蝠の名はキバーラ。夏海のパートナーでもある。

夏海「キバーラ。」

キバーラ「もう～栄ちゃんったら何処に行ったのよ～。」

海東「・・・」

海東は写真を見ていた。その写真を写っているのは海東と赤い長髪

の少女だった。海東はこう言った。

海東（湊・・・）

その頃、ゴーカイジャーは・・・

蜂女「フフッ。」

ゴーカイレッド「あ・・・」

ゴーカイジャーは何故か蜂女の前に倒れる。何故こんな事になったのか・・・そう。ゴーカイジャーは蜂女の毒にやられたのだ。ゴーカイジャーは戦っている時、蜂女の武器、ワルプフルーレに攻撃されてしまった事で毒がまわって来たのかと思った。しかし・・・

ゴーカイグリーン「ん、あれ?」

ゴーカイイエロー「何よ?何ともないじゃん。」

ゴーカイジャーは何ともないように立ち上がった。

蜂女「ん、変だわ。このワルプフルーレの毒は数秒で死を迎えるは

ずなのに何故・・・あ！」

何とワルプフルーレは溶けたかのように消えたのだ。

蜂女「何が一体・・・」

すると・・・

？？？「残念だけど、アンタの武器はないわ。」

蜂女「な、何者！？」

空から黄色い少女、キュアミューズが現れた。

蜂女「アンタは！」

ミューズ「やっぱり此処にいたのね。オバサン。」

蜂女「オ、オバ・・・」

蜂女はミューズにオバサンと言われ、蜂女はカンカンに怒りそうな感じだった。

ミューズ「でもゴーカイジャーが無事でよかった。」

ゴーカイピンク「貴方は？」

ゴーカイブルー「見ない顔だが？」

ミューズ「あ、そっか。ゴーカイジャーは私と会うのは初めてだっ

け?私は・・・爪弾くは女神の調べ!キュアミューズ!」

ゴーカイシルバー「キュアミューズ!?」

ゴーカイグリーン「ちょっと待って。ミューズって仮面を付けたミューズじゃないの?」

ミューズ「あ、それは・・・」

ドドリー「ミューズ。その話は後にするドド!」

ミューズ「あ、そうだったね!」

蜂女「いつの間にワルプフルーレを偽物に変えたの!?」

ミューズ「あの時・・・」

蜂女がゴーカイジャーの世界へ行く前・・・

ミューズ「フッ!」

蜂女「なっ!」

ミューズはキックで蜂女の武器、ワルプフルーレを落としてから次の攻撃で蜂女は壁に激突。その隙にミューズはワルプフルーレをキックで破壊し、更にミューズはピアノのような虹色な物を出し、ピアノを弾くと偽物のワルプフルーレが現れた。蜂女はワルプフルーレが偽物だと知らずにゴーカイジャーの世界へ行ったのだ。

元の場所

蜂女「おのれ～！」

ミューズ「残念だったねオバサン。此処で貴方を倒させて貰うわ。おいで、シリー！」

シリー「シシー！」

そこにシリーが現れ、シリーはキュアモジューレにセットする。

ミューズ「シ、の音符のシャイニングメロディ！」

ミューズの後ろから沢山の音符が現れた。

ミューズ「プリキュア！スパークリングシャワー！」

沢山の音符が蜂女に向けて発射し、蜂女は避ける暇もなく、沢山の音符が蜂女の体に包み込む。

ミューズ「三拍子！1、2、3！フィナーレ！」

すると蜂女から爆発が起こった。

蜂女「ぐっ！」

蜂女はボロボロ情態になった。

ゴーカイブルー「まだ生きてるのか！？」

ゴーカイイエロー「どんだけやる気なの！？」

蜂女「まだまだよ！」

ミューズ「響達は何処なの！？それを教えて！」

蜂女「フッ、教える訳・・・グハッ！」

ゴーカイジャー「！」

すると蜂女の体が誰かの腕に貫通される。蜂女は後ろに振り向くと、鷲のような黒い服と髪は腰まで長い黒髪の少女がいた。少女の背中には黒い羽と腰にはショッカーのベルトがつけていた。そこにひかりが現れ、ひかりは様子を見ると・・・

ひかり「あれは、プリキュア？」

蜂女「どう・・・して？」

？？？「貴方はもう・・・用済みよ。」

すると蜂女の体が光り出すと、蜂女は光の粒子となって消えた。

ゴーカイレッド「テメェ、ナニモンだ！？」

？？？「・・・」

ゴーカイイエロー「ちょっと！何か喋りなさいよ！」

？？？「貴方達がゴーカイジャー？」

ゴーカイピンク「はい。そうですが？」

ゴーカイブルー「それがどうした？」

？？？「貴方達に報告する。プリキュアと関わるな。」

ゴーカイシルバー「え？」

ミューズ「それってどういう意味なの！？」

？？？「もうじき分かるよ。それと・・・」

黒い少女の手からショッカーライトを出し、黒い少女はショッカーライトをゴーカイレッドに投げ渡す。

？？？「ショッカーライトを貴方に渡すわ。ショッカーライトは別世界や未来と過去へ行く事が可能よ。」

ゴーカイレッド「・・・」

ゴーカイレッドは黒い少女の目を合わせる。

？？？「自己紹介まだだったわね？私の名は・・・ショッカープリキュア。」

ショッカープリキュアと名乗った黒い服の少女はこの場から立ち去った。

ゴーカイレッド「ショッカー・・・プリキュア。」

ゴーカイレッドは手元になるショッカーライトをじっと見つめていた。

第6話：ゴーカイジャー&ミューズVS蜂女（後書き）

ショッカープリキュアはショッカーグリードのモチーフをしております。

第7話：いざ、プリキュアの世界へ！

ゴーカイジャーの世界

マーベラス達はゴーカイガレオンに戻ってから、アコはマーベラス達に自己紹介をした。マーベラスはショッカープリキュアから貰ったショッカーライトを見つめていた。

マーベラス「・・・」

ショッカープリキュア『私の名は・・・ショッカープリキュア。』

マーベラス「・・・」

マーベラスは拳を握り閉める。

マーベラス「ショッカー・・・プリキュア。」

ひかり「マーベラスさん。」

ルカ「ねぇ、あのプリキュア・・・あたし達の味方かな？」

ハカセ「いや、そんな風に見えなかったよ。」

鎧「だとすれば、敵・・・ですかね？」

アイム「でも何だかあの子、凄く悲しいような顔でした。」

アイムはショッカープリキュアの目を見た時、とても悲しかったよ

うな顔と省く。

アコ「ねぇ、アイムだっけ？どうしてそう思うの？」

アイム「きっと、あの子の過去に何があったかもしれません。」

ナビィ「ねぇ皆。何かあっちの方、うるさくない？」

ハカセ「え？」

確かに何かの声が聞こえる。前はあんなにうるさくなかったのだ。

ジョー「誰かいるそうだな。」

ジョーは扉を開くと、何と光写真館があった。

士「夏海！ハハハ・・・笑いのツボはやめろって・・・ハハ、言ってるだろ！」

夏海「士君が変な事言うからですよ。」

士「ったく～、ん？お前等は・・・」

ジョー「お前、誰だ？」

ユウスケ「え、此処何処？」

ルカ「写真館？こんな所に写真館あったっけ？」

ハカセ「いや、写真館があるなんてそんな事は・・・」

海東「君達がゴーカイジャーかい？」

マーベラス「誰だ？」

海東「僕は海東大樹。又は仮面ライダーディエンドだ。」

鎧「ディエンド？」

海東「で、彼が門矢士。又は世界の破壊者、仮面ライダーディケイドだ。」

士「おい海東！」

士は海東がいきなり世界の破壊者が言われ、海東を殴ろうとした。
しかし・・・

ルカ「ディケイドって・・・あぁ！さっきあたし達を助けてくれたピンク色なバーコードな人！」

士「ディケイドはピンクでもないしバーコードでもない！マゼンダだ！」

ハカセ「まさかあれ、君なんだね！」

士「あ、あぁ。」

アイム「まさかバーコードの人が貴方だったなんて・・・」

士「だからバーコードじゃ・・・」

アコ「ディケイド・・・まさか、あのディケイド！」

するとアコがディケイドの事を知っていたかのように省いた。

マーベラス「知ってんのか？」

ひかり「世界の破壊者ディケイドはこれまで他の世界を破壊しようとしたのです。」

ルカ「え？」

するとひかりがディケイドの事をマーベラス達に話す。

ひかり「彼はこの世界の悪魔です。」

ナビィ「えぇ～！？」

ポルン「悪魔ポポ！？」

ルルン「悪魔ルル！？」

士「また俺の事悪魔扱いかよ？」

ジョー「ホントにお前、悪魔なのか？」

士「だったら何だ？」

ジョー「お前を斬る。」

ジョーはレンジャーキーを出す。

士「フッ、いいだろう？」
士はカードを出す。

ルカ「ジョー。ちょっと・・・」

夏海「二人とも、いい加減にして下さい！」

夏海は親指を立ててから、二人の首を突く。

士「アッハハハハ！だからそれやめろって言ってるだろ！」

ジョー「ククク、何をした？」

ジョーは不気味な笑いをし始めた。

ハカセ「ジョー、大丈夫？」

夏海「とにかく私の話、聞いて下さい！」

夏海はディケイドの事を話した。

アコ「そうだったんだ。勘違いしてしまってごめんなさい。」

夏海「いえ、気にしてません。」

アイム「ところで貴方達は一体？」

ユウスケ「俺は小野寺ユウスケ。又は仮面ライダークウガだ。」

夏海「私は光夏海。又は仮面ライダーキバーラです。」

ルカ「フ～ン、仮面ライダーか。」

鎧「あ！思い出した！二年前一度だけシンケンジャーと一緒に戦った事がある仮面ライダー！」

士「成る程。よっぽどシンケンジャーの事詳しいようだな。」

ルカ「それは勿論、シンケンジャーのレンジャーキーがあるんだもん。」

士「レンジャーキーか。」

マーベラス「ん？」

するとショッカーライトが光り出した。

アコ「あ、ショッカーライトが・・・」

ポルン「光ってるポポ。」

ライトから道のような虹色のレールが現れ、まっすぐ通りかかるとワームホールが現れた。

ユウスケ「何だあれ？」

キバーラ「あれはワームホールよ。」

そこにキバーラがやって来た。

ハカセ「え、え？」

ハカセはキバーラを見て驚いていた。

海東「そういう事か。」

ユウスケ「え、何が？」

海東「つまり僕達仮面ライダーや海賊共と協力し、プリキュアの世界を救う事が役割だそうだ。」

士「そうか。だからそれで・・・」

マーベラス「何でプリキュアを知ってる？」

海東「君達には関係ないよ。」

マーベラス「んだと？」

マーベラスは海東の所へ寄ろうとしたが・・・

ルカ「マーベラス、落ち着いて。あんた、海賊の事嫌いなの？」

海東「・・・」

ルカ「ねぇ、答えて。」

士「海東！」

海東「僕は海賊なんか興味ないね。」

海東は此処から去る。

ハカセ「興味ないって・・・」

ジョー（あいつ・・・）

ひかり「それよりマーベラスさん、お願いします。プリキュアの世界へ行きましょう！」

アコ「皆を救いたいの！だからお願い！」

マーベラス「・・・」

ジョー達は首を下に降る。

マーベラス「分かった。お前の頼みなら、行ってやるぜ。」

ひかり「マーベラスさん！」

アコ「貴方達はどうするの？」

士「行くに決まってんだろ。どうもハイパーショッカーの奴等が気に入らねぇな。」

ユウスケ「俺も行くよ。」

夏海「勿論私も！」

キバーラ「私も行くよ～♪」

ひかり「仮面ライダーの皆さん。」

マーベラス「よし、とりかじいっぱい。プリキュアの世界へ行くぞ！」

ゴーカイガレオンはプリキュアの世界を守る為、再びプリキュアの世界へ旅たつ事になった。すると街からゴーカイガレオンを見ていた赤い海賊の衣装を纏い、赤い長髪の眼帯の少女が現れた。

？？？「ゴーカイジャーと仮面ライダーがプリキュアの世界に・・・ハァ～、しょうがない。渡の言う通り、助っ人を頼みに行くか。」

少女は灰色のカーテンに入り、灰色のカーテンに入った少女は消えた。

番外編：ショッカープリキュア

レジェンド大戦。それは宇宙帝国ザンギャックが地球を襲い始めた。

ゴーミン「ゴー！」

スゴーミン「スゴー！」

ゴーミンとスゴーミン達は人々を襲い始めた。人々はパニック状態であった。父と母、５歳の少女はガレキの下に隠れた。

父親「逃げろ！」

???「嫌！私一人になるの嫌！」

母親「そんなに死にたいの？私達だって死にたくない。でも娘だけは絶対にダメなの。だから逃げて！」

???「でも！」

スゴーミン「おい！人間がいたぞ！始末しろ！」

ゴーミン「ゴー！」

母親「貴方は生きて！生きてスーパー戦隊の助けを待って！」

???「・・・」

父親「行けー！」

少女は親を離れて逃げた。父と母は娘を守る為、ゴーミンとスゴーミンの足止めをするが・・・

父親「うわあー！」

母親「キャアー！」

父と母はザンギャックに殺されてしまった。

???「パパー！ママー！」

調度その頃、ゴセイジャーが現れ、ザンギャックに立ち向かうが、余りの強さで苦戦した。ゴセイジャーのピンチにアカレンジャーやビックワン、シグナルマン達が駆け付け、ゴセイジャーはアカレンジャーやビックワンと共に他のスーパー戦隊の所に向かう。３４のスーパー戦隊は全ての力を結集し、ザンギャックの艦隊は全滅した。だがそれと同時にスーパー戦隊の力は失った。少女は壊れかけたビルの所で立ち止まっていた。

???「何で？何でスーパー戦隊はパパとママを助けなかったの？何で？」

少女は涙を大粒に流し、スーパー戦隊が両親を救えなかった事を恨んでおった。そして少女はこう言った。

???「許せない。スーパー戦隊！いつか復讐してやる！パパとママを助けなかった事を私が復讐してやる！うわあー！」

少女は街中まで叫び声が響き渡った。

ショッカープリキュア「！」

ショッカープリキュアは目を覚ます。

ショッカープリキュア「夢？」

するとショッカー戦闘員が現れ、戦闘員はショッカープリキュアにショッカー首領が呼んでる事を伝えた。それを聞いたショッカープリキュアはショッカー首領の所へ。ショッカープリキュアはしゃがむ。すると足音がゆっくりとショッカープリキュアの所へ近寄る。その正体はショッカー首領がだった。

首領「どうだショッカープリキュア？ゴーカイジャーや光の園のクイーンをプリキュアの世界を上手く誘き寄せたか？」

ショッカープリキュア「はい。ゴーカイジャーはショッカーライトを使い、ゴーカイジャーはプリキュアの世界へ行きました。」

首領「そうか。それとショッカープリキュアよ。」

ショッカープリキュア「何でしょうか？首領。」

首領「家族の復讐を果たす時が近付いて来たんだ。いいかショッカープリキュア？21人のプリキュアの力と合わせ、スーパー戦隊の力を使っているゴーカイジャーを倒せ。ただし失敗は許されないぞ！」

ショッカープリキュア「はっ！」

ショッカープリキュアは立ち、この場から去ろうとした。

ショッカープリキュア（スーパー戦隊。いつか私の恨み、今こそ果たしてやる！）

ショッカープリキュアの体が光ると、ショッカープリキュアは人間の姿に戻った。

第8話：プリキュアの世界、再び！

プリキュアの世界

すると空からワームホールが現れ、ワームホールからゴーカイガレオンが出て来た。マーベラス達は士達にプリキュアの世界に体験した事を話し、ジュダがプリキュアの世界を闇の世界に変えようとした。だがゴーカイジャーとプリキュアによってジュダは滅び去った。ジュダが滅び去ってからゴーカイジャーは自分達の世界へ帰った。士は少し納得した。マーベラス達はステージの所に降りた。

士「ん、海東の奴はどうしたんだ？」

士は海東の姿が見当たらない事に気付いた。

ユウスケ「それがさ、海東の奴、一人でこの世界を探るって・・・」

夏海「大樹さんが？」

士「あいつ勝手な事を・・・」

ルカ「で、あんた達はどうすんの？」

士「俺達は別の場所を探す。この世界にハイパーショッカーがいるかどうか探したいでな。行くぞ。」

士達は一旦マーベラス達と別れた。士達はこの世界にハイパーショッカーがいる事を探す為に・・・

ハカセ「行っちゃったね。」

アイム「あの人もきっとハイパーショッカーにとても関わってるようですね。」

マーベラス「・・・」

鎧「マーベラスさん、どうかしたのですか?」

マーベラス「どうも気に入らねぇな。」

ひかり「え?」

ポルン「何が気に入らないポポ?」

ジョー「マーベラス、お前まさかハイパーショッカーという奴がプリキュアの世界がいないって事が・・・」

マーベラス「ちげぇよ。」

アコ「は?あんた何が違うって言うの?」

マーベラス「静か過ぎるんだよ。此処・・・」

アコ「え?」

マーベラスの言う通り、此処は静か過ぎる。確かに人の気配はない。街は何時の間にかショッカーの映像が全部の街に映っていた。

鎧「何だよこれ?街が・・・」

アコ「此処って私達の世界？」

ルカ「これって・・・夢なの？イテテテテテ！」

ポルンはルカの頬を引っ張った。ルカはポルンを掴む。

ルカ「ちょっと何すんのよ！？」

ポルン「これは夢じゃないポポ！現実ポポ！」

ジョー「確かに、これは夢じゃないな。」

ひかり「まさか、私達の世界がハイパーショッカーに！」

アイム「ひかりさん、落ち着いて下さい。」

ハカセ「そうだよ。きっと何かの間違いなはずだよ。」

すると・・・

？？？「お兄ちゃん達。」

マーベラス「ん？」

マーベラス達は後ろに振り向くと・・・

その頃、士達は・・・

士「おいおい、一体何がどうなってんだ?この世界は・・・」

士達はプリキュアの世界を調べると、街は全てハイパーショッカーの映像が映り出した。人の気配も全くなかった。

ユウスケ「やっぱりこの世界はハイパーショッカーに・・・」

夏海「・・・」

ユウスケ「夏海ちゃん、どうかしたの?」

夏海「いえ、大樹さんの事気になってて。」

士「あいつの事なら大丈夫だろ。多分な。」

ユウスケ「おい士、多分ってないだろ。海東は俺達の仲間なんだぞ。」

すると14歳のような少女が現れ、少女は士の背中に隠れる。

士「おい、どうした?」

???「助けて。」

夏海「え、助けてって？」

？？？「追ってくるの、怪人が・・・」

ユウスケ「え、怪人？」

士達の前に、沢山のショッカー戦闘員達と十面鬼、ドラスが現れた。

十面鬼「久し振りだな、ディケイド。」

ユウスケ「お前は！」

士「十面鬼。」

かつてアマゾンの世界でディケイドやディエンド、アマゾンの手で倒したはずだった。

十面鬼「その小娘を渡して貰おうか？」

夏海「小娘ってこの子の事？」

少女は怪人に怯えていた。

士「成る程。何されたかは知らんが、そうはいかねぇな。」

ユウスケ「これ以上、誰かを傷付けるのは見たくない。傷付ける奴は、俺が許さない。」

夏海「私も、貴方達の事は許せません。」

???「そこまで言うのかね？夏海君。」

士達は後ろに振り向くと、ゾル大佐の姿をした鳴滝がいた。

夏海「貴方は？」

士「まだディケイドを倒したいのか？変態。」

鳴滝「変態ではない！私は鳴滝だ！」

ユウスケ「いや、どう見ても貴方変態じゃないですか。」

夏海「そうですよね。鳴滝さん、少女アニメを毎週欠かさず見てるようですし。」

鳴滝「うるさい！夏海君、我々と一緒に来い！おじいちゃんも待っておるぞ！」

夏海「おじいちゃんってまさか！」

士「テメェ、まさかじいさんを！」

鳴滝「そうだ！だから・・・」

十面鬼「黙れこのストーカー！」

十面鬼は鳴滝に向けて衝撃波を放った。鳴滝は喰らうと空まで吹っ飛んだ。

鳴滝「私は変態でもないしストーカーでもなーい！」

鳴滝は星になった。

士「やっとあの変態がいなくなったか。ご苦労だな。」

十面鬼「フン、我々ハイパーショッカーはあんな変態な奴に仲間になる必要はない。」

士「だよな。お前は逃げろ。」

？？？「うん。」

少女は士達の所を離れた。

士「行くぞ。」

士はディケイドのカードを出す。ユウスケは両手を腰を前に出すと、アークルが現れた。

夏海「キバーラ。」

そこにキバーラがやって来た。

キバーラ「フフッ、久し振りに行くよ♪」

夏海はキバーラを掴む。

「「「変身！」」」

カメンライド、ディケイド！

士はカードを裏向いてからドライバーを入れ、バックルを押すと士は仮面ライダーディケイドの姿、ユウスケは左側にあるスイッチを押すと、ユウスケは仮面ライダークウガの姿、夏海はキバーラを前に出すと夏海の額にハートが現れ、夏海は仮面ライダーキバーラの姿に変わった。

十面鬼「ほぅ、新らしいライダーも加わったか？おもしろい。」

ディケイド「フン。」

ディケイドはライドブッカーをソードモードに変えた。壁に隠れながらディケイドの戦いを見ていた少女は、ニヤッと笑った。

第9話：ショッカープリキュアの正体

何とマーベラス達に声をかけた正体は・・・

ジョー「あんたは、確か咲の妹の・・・」

ひかり「みのりちゃん！」

咲の妹、みのりだった。ひかりはみのりがプリキュアの世界がどうなってるのか聞いてみる事に・・・

ひかり「みのりちゃん！此処は一体どうなってるの！？」

みのり「・・・」

マーベラス「どうした？何か言えよ。」

するとマーベラス達の後ろから二人の少年がマーベラス達に近寄って来た。それを気付いたジョーとルカは二人の少年の腕を掴む。

？？？「イテテテテ！」

？？？「ちょっと離してよ！」

鎧「ん？」

マーベラス達は声をした方へ振り向くと・・・

ルカ「あんた達誰？あたし達に何の用？」

???「痛いって離せよ！」

アコ「あ、奏太！」

ひかり「亮太君！」

マーベラス達に近付いた二人の少年は、なぎさの弟、亮太と奏の弟、奏太だ。

アイム「知ってるのですか？」

アコ「うん。ジョー、ルカ。二人を離して。」

ジョー「だが・・・」

ひかり「お願いです、二人とも。」

ルカ「ハァ～、しょうがないか。」

そう言うとジョーとルカは二人を離した。

ジョー「行け。」

奏太「あ、あぁ。二人とも、行こうぜ。」

そう言うと亮太とみのり、奏太はマーベラス達から離れた。

ハカセ「う～ん、何だったんだろうあれ？」

鎧「っていうか皆さん、いいんですか?この世界がどうなっているのかを話さないままで・・・」

マーベラス「別にいいだろ?それに、ハイパーショッカーの奴等は俺達で捜さなきゃならないからな。」

ルカ「ったく、素直じゃないね。」

その頃、マーベラス達の所に離れた亮太達の手は五つのモバイレーツとゴーカイセルラーがあった。

亮太「ねぇ奏太、これでいいの?」

奏太「まぁね。」

みのり「それにしても不思議な携帯だね。」

するとマーベラス達はモバイレーツとゴーカイセルラーがない事に気付く。

ハカセ「あれ、モバイレーツがない!」

鎧「俺のゴーカイセルラーも!」

ルカ「まさか!」

ジョー「あいつ等・・・」

マーベラス「野郎!」

マーベラス達は亮太達を追い掛ける。

亮太「ヤバッ、気付かれた！」

奏太「逃げるぞ！」

それを気付いた亮太達はマーベラス達から逃れようとする。

マーベラス「待てー！」

アコ「待って奏太！」

マーベラス達は亮太達をずっと追い掛けると、そこにはプリキュアの世界には見た事がないジャンクな街があった。

鎧「え、何すかこれ？」

ハカセ「こんな所にジャンクな街があったっけ？」

マーベラス「知るか！」

ひかり「取り敢えず亮太君達を！」

マーベラス達は亮太達をずっと追い掛けた。すると五台のパトカーがマーベラス達の前に止まった。警察官はパトカーから降りた。

ハカセ「け、警察！？」

ルカ「ちょっとそこを退きなさいよ！あの子達が逃げちゃうじゃない！」

すると警察官はルカに近付くと、何と警察官はルカを殴った。殴られたルカは地面に倒れる。

ハカセ「ルカ！」

警察官Ａ「ショッカー警察に歯向かうとはいい度胸してるな。」

アイム「貴方達こそ、いきなりルカさんを殴るなんて酷いじゃないですか！」

警察官Ａ「フン、お前達を連行する。」

アコ「え？」

すると警察官達はマーベラス達を抑えた。

鎧「街って下さい！俺達は何もしてないですよ！」

マーベラス「わりぃな、逮捕は二度とごめんだぜ。」

マーベラス達は警察官達を投げ払い、マーベラス達は警察官から逃れようとした。

警察官Ｂ「追え！追え！」

すると警察官達はショッカー戦闘員になり、二人の警察官はナスカドーパント、ウェザードーパントに変身した。

ハカセ「え～何がどうなってるの！？」

ルカ「マーベラス、どうすんの？」

マーベラス「一旦逃げるぞ。モバイレーツなしじゃちょっとキツいからな。」

アイム「はい。」

マーベラス達はゴーカイガンを地面に向けて連続発射し、地面から火花が沢山散った。火花がはれるとマーベラス達の姿はなかった。

ウェザー「くっ、逃げたか。」

ナスカ「まぁいい。明日あいつ等を捜そう。」

ウェザー「明日？何故だ？」

ナスカ「もうすぐ日が暮れるからだ。」

ウェザー「そうだったな。お前等、帰るぞ。」

ショッカー戦闘員「イーッ！」

そう言うとウェザーとナスカとショッカー戦闘員達は消えた。

その頃、ショッカー警察から逃れたマーベラス達は道路の所まで止まった。

ルカ「もう追って来ないの？」

ハカセ「うん、そうみたい。」

ひかり「一体私達の世界に何が・・・」

ポルン「長老や番人も大丈夫ポポ？」

アコ「きっと大丈夫。あの人達はそう簡単にやられたりはしないから。」

ひかり「はい、そうだといいですね。」

ジョー「それより何処かに暮らせる所はどうする？」

ルカ「ゴーカイガレオンを呼びたいけどモバイレーツがないと呼べないし・・・」

アコ「だったら調べの館はどう？」

アイム「調べの館？」

アコ「うん。あそこだったらきっと大丈夫なはずよ。」

マーベラス「本当だな？」

アコ「うん。」

マーベラス「よし、調べの館へ行くぞ！」

鎧「はい！」

マーベラス達は急いで調べの館へ向かった。

その頃、ディケイドは・・・

十面鬼「ぐあっ！」

十面鬼はディケイドの強さで倒れた。ディケイドはライドブッカー・ソードモードを十面鬼に向ける。

ディケイド「俺の勝ちだな、十面鬼。」

十面鬼「くっ！」

ディケイド「さっさと教えて貰おうか？この世界は一体どうなって

いる？」

十面鬼「フ、フフフ・・・」

ディケイド「何がおかしい？」

十面鬼「何がって？フン、どうやら形勢逆転のようだな。」

ディケイド「何？」

すると・・・

クウガ「うわあああああ！」

キバーラ「きゃあああああ！」

クウガとキバーラは何かの光弾で喰らい、倒れた。

ディケイド「ユウスケ！夏海！」

するとクロックアップのようなスピードでディケイドを襲う！

ディケイド「があっ！クロックアップか！」

相手がスピード速いならカブトの方が有利だと思い、ディケイドはカブトのカードを出そうとした。しかし・・・

ショッカープリキュア「させない！ショッカーバインド！」

突如現れたショッカープリキュアの両手から三つの光のリングが現

れ、その三つの光のリングがディケイドの周りに・・・

ショッカープリキュア「フン！」

ショッカープリキュアは右手の拳を握り閉めると、三つの光のリングがディケイドを捕らえた。

ディケイド「ぐあっ！」

クウガ「士！」

キバーラ（ライダー）「士君！」

十面鬼「残念だったなディケイド。此処が貴様の墓場だ。」

ディケイド「くっそ！」

クウガとキバーラ（ライダー）はバインドで締め付らているディケイドを助けようとするが、バインドは消えなかった。

ショッカープリキュア「無駄よ。このショッカーバインドには特別な力を持ってる。脱出する事は不可能よ。」

ディケイド「何！？」

ショッカープリキュア「さよなら。世界の破壊者、ディケイド。」

ショッカープリキュアはセルメダルを投げてから、セルメダルを『キーン』と落ちるとセルメダルのレーザーが現れ、ショッカープリキュアに注入すると、ショッカープリキュアの体からブレストキャ

ノンが現れた。

ディケイド「なっ！？」

ショッカープリキュア「フン、ブレストキャノン・・・シュート！」

ショッカープリキュアはブレストキャノンの出力を上げ、そして物凄いエネルギーで発射した。それと同時にディケイドを締め付けたバインドが消えた。

ディケイド「仕方ない。此処は対策を立て直すぞ。」

ディケイドはカードを出してからカードをバックルの中に入れる。

アタックライド、インビジブル

するとディケイドとクウガとキバーラ（ライダー）が消えた。

ショッカープリキュア「・・・」

ショッカープリキュアはディケイドを仕留めたかどうか確かめるが、ディケイドの姿はなかった。

ショッカープリキュア「逃げたか。」

ショッカープリキュアは変身を解除する。その正体は何と士達に助けられた少女だった。

十面鬼「素晴らしい、次もこの調子で頑張るんだぞ。黒沢歩美。」

歩美「うん、分かってるよ。十面鬼。」

そう言うと二人は消えた。

キャラ紹介

黒沢歩美

ショッカープリキュアに変身する少女。性格は冷たい表情でもあり無口でもある。髪の色は黒で髪型は短い。彼女はスーパー戦隊の世界の住人であり、親子と一緒に平和で暮らしていたが、宇宙帝国ザンギャックの地球侵略により、両親はザンギャックに殺されてしまう。彼女はスーパー戦隊が両親を救えなかった事を恨んでおり、遂に歩美はスーパー戦隊を復讐する事を誓った。そんな彼女の前に首領と出会い、首領は歩美をプリキュアにさせ、7年前の過去へ連れてかれたプリキュアオールスターズを倒した。果たして彼女は光を取り戻すのだろうか？

ショッカープリキュア

黒沢歩美が変身した姿。衣装はリインフォース？のバリアジャケットの服と背中にはショッカーグリードの羽とスカートはムーンライトよりも長い。髪の色は変わりはないが、髪型は腰まで長くなっている。ショッカープリキュアは今までのライダーの必殺技を使う事が出来る。

第１０話：変わり果てた世界（前書き）

今回はターザンさん作、『仮面ライダーヤイバ』から武藤アイリが登場します。

第１０話：変わり果てた世界

その夜、マーベラス達はやっとの事で調べの館に着いた。しかしそこにはボロボロな館があった。そう、これは終戦後の日本と思うだろ。元々此処はエレンとアコが住んでいた調べの館だったはず。マーベラス達は間違いだと思ったが、ひかりは『アコちゃんは場所を間違うはずがありません。』と語る。そしてひかりとアコは確信した。

ひかり「きっと何かが起こったかもしれません。だって私達は、ハイパーショッカーによって過去の世界へ飛ばされたんです。」

マーベラス「本当なのか？」

ひかり「はい。」

鎧「取り敢えず、入りましょう。」

取り敢えずマーベラス達は中へ入ってみるとパイプオルガンやグランドピアノがなくなっており、そして周りには蜘蛛の巣が沢山あった。

アコ「おじいちゃん！おじいちゃん！」

アコはアコの祖父、調辺音吉を捜すが、音吉の姿はなかった。アコは音吉の事が心配になり、音吉に何かが起きたと思った。だがアコは音吉が無事だという事を信じ込んだ。

鎧「誰もいませんね。」

ハカセ「何がどうなってんだ?」

マーベラス達はずっと周りを探ると、亮太とみのりと奏太を見つけた。

ひかり「亮太君!みのりちゃん!」

アコ「奏太!」

三人はハッと声を出し、奏太は近くに置いてあるナイフを取り出して構える。

アコ「奏太、何のつもり?」

奏太「お前等、何で此処が俺達のアジトだと分かった?」

ルカ「アジト?」

ジョー「どういう事だ?」

マーベラス「んな事より、俺達のモバイレーツを返せ。」

奏太「そんなもんなんか川に捨てたよ!」

マーベラス「何だと?」

マーベラスは喧嘩を売ろうとしたが、鎧に止められる。

鎧「マーベラスさん!落ち着いて下さい。君達学校はどうしたの?

何でこんな・・・」

奏太「お前バカか！生きる為に決まってんだろ！」

ルカ「生きる為？」

マーベラス達は奏太が一体何を言ってるのか全く分からなかった。
そこでアイムは質問する事に・・・

アイム「どうしてですか？」

亮太「学校はな、ハイパーショッカーがエリートじゃなきゃ通わないんだ！」

鎧「またハイパーショッカー？それって・・・」

？？？「ワシが教えよう。」

すると階段から老人がマーベラス達の元へやって来た。その老人は幸せの音色を奏でるパイプオルガンを作っていた老人。それは・・・

アコ「おじいちゃん！」

アコの祖父、調辺音吉の姿だった。アコは音吉の所へ駆け寄ると、音吉はアコの頭を撫でる。

マーベラス「おいじいさん、ハイパーショッカーとは何だ？さっさと教えろ。」

鎧「マーベラスさん！ちょっと言い過ぎじゃ・・・」

音吉「分かった。今からハイパーショッカーを説明する。ハイパーショッカーとは・・・日本を支配しようとした秘密結社。更にショッカーは、デストロン、ＧＯＤ機関、ゲドン、デルザー軍団、クライシス、そして今まで戦士達によって倒された怪人達を集結した悪の大組織・・・彼等の目的は世界征服と逆らう者達を皆殺しにする。それがハイパーショッカーだ。」

アイム「ハイパー・・・ショッカー。」

音吉「それにこの世界は2種類の人間しかいないのだ。」

ひかり「じゃあつまり私達の世界とは全く違う世界へと飛ばされてしまったという事ですか？」

音吉「あぁ、そうじゃ。」

奏太「だから俺達は生き残る為にずっと苦労して来たんだ。」

亮太「父さんや母さんだって一体どうなったのか分からない。」

みのり「でも、私達は皆無事だって事を信じたい！信じたいの！」

ひかり「・・・」

ジョー「ん？」

ルカ「どうしたのジョー？」

ジョー「静かにしろ。」

マーベラス達は静かにすると何やら音が館の中まで鳴り響いていた。皆は壁を見ると、壁にヒビが入る。そして・・・

マーベラス「伏せろ！」

マーベラス達は伏せると、壁から爆発が起こった。マーベラス達は爆発した壁を見てみると、そこには先程のナスカドーパントとウェザードーパントの姿が・・・それだけではない。二体のドーパントの後ろに沢山の怪人達がいた。大量のショッカー戦闘員やマスカレイドドーパント、そしてワームがいた。

奏太「ハイパーショッカー！」

亮太「何でこんな所に！？」

音吉「ついにバレたんじゃ。ワシ達の所を・・・」

ルカ「どうすんのマーベラス！？モバイレーツなしじゃ戦えないよ！」

マーベラス「くっそ～。」

アコ「ふたてに別れよう。そうすればばらまく筈よ。」

マーベラス「よし。」

マーベラス達は亮太とみのり、ひかりを連れ、鎧はアコ、奏太、音吉を連れてふたてに別れる。怪人達はふたてに別れて追う。その頃、鎧達は目の前にナスカドーパントや怪人達の群れが現れる。鎧は変

身しようとしたが、ゴーカイセルラーがない為、変身出来ない。するとアコが・・・

アコ「鎧はおじいちゃんや奏太をお願い。此処は私が食い止める。」

アコは飛び出した。

鎧「アコちゃん！」

アコはキュアモジューレを出すと、そこにドドリーが現れ、ドドリーはキュアモジューレにセットする。

「レッツプレイ！プリキュア、モジュレーション！」

アコはキュアモジューレを持ちながらト音記号を描いてから下にあるボタンを押すとアコはキュアミューズに変身した。

「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」

奏太「あ・・・」

奏太はミューズを見ると、突然体が震え始めた。

鎧「ん、奏太君？」

ミューズは怪人達に向かって突撃する。それと同時に襲いかかる怪人達。

ミューズ「ハァー！」

ミューズはショッカー戦闘員達やマスカレイド達を攻撃し、次にキックでマスカレイドは吹っ飛ぶ。だが武者童子が両手に持っている武器で攻撃し、更にサイ怪人が猛烈に突進し、体当たりでミューズを吹き飛ばす。それでもミューズは立ち上がる。

ミューズ「くっ、強い。」

ドドリー「ミューズ、諦めちゃ駄目ドド！」

ミューズ「分かってるよ、ドドリー。」

すると・・・

鎧「うわあああああ！」

ミューズ「あ、しまった！」

何と、鎧達の方にもハイパーショッカーの魔の手がいた。ミューズは後ろへ振り向くと、また新しい怪人達とグリードのウヴァが鎧を襲う。鎧は戦うが、全く歯が立たない。

ウヴァ「どうした？お前の力はこの程度か？」

鎧「くっ！」

ミューズは鎧達を助けに行こうとしたが、気を取られてしまったせいかミューズも敵に囲まれてしまった。もう駄目かと思ったその時！

ショッカー戦闘員？「ちょっと待って下さい。」

何とショッカー戦闘員の一人がミューズの前に立った。

ナスカドーパント「貴様、何のつもりだ？」

ショッカー戦闘員？「どうして・・・どうしてたった一人子供に、こんなに沢山襲うなんておかしくありませんか？」

ナスカドーパント「我々ハイパーショッカーに逆らう者は全員排除する。貴様も分かっているだろ？」

ショッカー戦闘員？「そうかもしれませんね。でも・・・」

ショッカー戦闘員は自らのマスクを投げ捨てた。中から出て来たのは、何と２０歳くらいの女性だった。更に女性は戦闘員の服を脱ぎ捨てると、携帯を持った。

？？？「私、ハイパーショッカーではありませんから。」

ナスカドーパント「貴様、一体何者だ？」

？？？「私は、武藤アイリ。又の名を・・・」

アイリと名乗った女性は、携帯を開き、一枚のカードをスキャンした。

「プリキュア！スキャニングチェンジ！」

キュアライド、ディリー！

するとアイリの体がマゼンダ色の光に包まれる。

ナスカドーパント「ぐっ！」

ミューズ「な、何！この光！？」

光が収まるとアイリと名乗った女性は何とマゼンダ色のプリキュアに変身した。

ミューズ「あれって、プリキュア？」

ナスカドーパント「ディケイド・・・ではない。貴様は何者だ！？」

「全ての集大成、キュアディリー！」

第１０話：変わり果てた世界（後書き）

次回、ショッカーに敗北されたプリキュアが登場！しかし・・・

第11話：敵はプリキュア

ミューズ「キュア・・・ディリー。」

ナスカドーパント「まだプリキュアがいたのか。おもしろい、始末しろ。」

ナスカドーパントの命令で怪人達はディリーの周りを囲む。

ディリー「ミューズ。此処は私に任せてゴーカイシルバーと一緒にゴーカイジャーとルミナスを助けに行きなさい。」

ミューズ「え、どうして私の名前を?」

ディリー「いいから早く行きなさい。」

ミューズ「うっ・・・」

ディリーはミューズの方へ向くとディリーは首を下に降る。

ミューズ「分かった。気を付けて、キュアディリー。」

ミューズは怪人達に囲まれている鎧達の所へ向かい、ミューズは怪人達を追い払い、鎧達を助けた。

ミューズ「鎧、マーベラス達やひかりを助けに行くよ。」

鎧「でもあのプリキュアは?」

ミューズ「いいから。大丈夫奏太？」

奏太「触んな！」

ミューズは奏太を触れようとしたが、奏太はミューズの手を払う。

ミューズ「奏太？」

奏太「お前、何で俺を助けた？プリキュアは・・・」

ミューズ「プリキュアが、何？」

奏太「やっぱりいい。それよりそこのあんた。」

鎧「何？」

奏太「ほらよ・・・」

奏太の手には５つのモバイレーツとゴーカイセルラーがあった。奏太は川へ捨てたと言ったがあれは嘘をついていたそうだ。鎧は直ぐ５つのモバイレーツとゴーカイセルラーを手に取る。

奏太「勘違いすんなよ。俺はただ、皆を守る為に返しただけだ。」

鎧はニッコリと笑い、奏太の頭を撫でた。頭を撫でられている奏太は少し嫌がっており、鎧はすぐ手を離した。

鎧「ありがとう奏太君。豪快チェンジ！」

ゴーカイジャー！

鎧はゴーカイシルバーに変身した。

ゴーカイシルバー「行こうアコちゃん！」

ミューズ「うん！」

二人は奏太や音吉を連れてマーベラス達やひかりの所へ向かった。

ディリー「頼むよ。」

その頃、森の中でマーベラス達は怪人達の群れと戦っていたが、余りの強さで苦戦していた。ひかりはルミナスに変身するが、戦う力がない為、地面に倒れていた。その隙に二人のショッカー戦闘員は草原に隠れていた亮太とみのりの腕を掴み、襲う。

ルミナス「亮太君！みのりちゃん！」

ルミナスは立ち上がり、助けに行こうとしたが、ルミナスの上に雷雲が現れ、ルミナスの周りに囲む。そう、これはウェザードーパントの能力だ。ウェザードーパントは左腕を強く押すと、ルミナスの周りに囲まれている雷雲が雷を出し、ルミナスを襲う。ルミナスは

避ける暇もなく、雷に直撃される。大ダメージを喰らったルミナスは地面に倒れる。

ポルン「ルミナス～・・・」

ルルン「ルル～・・・」

ルミナス「くっ。」

マーベラス「ひかり！テメェ！」

ウェザードーパント「フフフフ。」

亮太「離せ！離せ！」

みのり「嫌だ、死にたくない！」

ショッカー戦闘員「ハイパーショッカーに逆らった者よ・・・そうの命を持って償うのだ！」

ショッカー戦闘員はナイフを手に持ち、二人を殺そうとしたその時！

ゴーカイシルバー「おりゃあああああ！」

ゴーカイシルバーとミューズが二人を掴んでいるショッカー戦闘員を後ろから攻撃した。そして二人はゴーカイシルバーとミューズによって助けられ、そこに奏太と音吉が現れ、ルミナスは何とか立ち上がり奏太達を安全な場所へ隠れる。

ゴーカイシルバー「皆さん、大丈夫ですか？」

マーベラス「バカ野郎、おせぇんだよ！」

マーベラスがそう言うとマーベラス達はゴーカイサーベルで周りにいる怪人達を追い払う。

ルカ「ったく、ホントに遅いっつうの！」

ゴーカイシルバー「すいません。あ、それと皆さん！」

ゴーカイシルバーは5つのモバイレーツをマーベラス達へ投げ渡した。

マーベラス「フッ、とっとと片を付けるぞ。」

マーベラス達はレンジャーキーを出してから、モバイレーツを開く。

「豪快チェンジ！」

次にマーベラス達はレンジャーキーをモバイレーツをさし、そして・・・

ゴーカイジャー！

マーベラス達はゴーカイジャーに変身した。

ゴーカイレッド「さ～て、たっぷりと仕返ししてやるぜ。」

ゴーカイジャーは早速ゴーカイサーベルとゴーカイガン、ゴーカイシルバーはゴーカイスピアを持つ。更にゴーカイブルーとゴーカイ

イエローは二つのサーベルを持ち、ゴーカイグリーンとゴーカイピンクは二つのゴーカイガンを持つ。

ウェザードーパント「フン、行け！怪人共！」

ウェザードーパントは怪人達を命令すると一斉に走り出す。それと同時にゴーカイジャーとミューズも一斉に走り出す。

ゴーカイレッド「ハッ！おりゃ！」

先ずゴーカイレッドはゴーカイサーベルでショッカー戦闘員達を攻撃しながらゴーカイガンで攻撃。

ゴーカイブルー「フッ、ハアッ！」

次にゴーカイブルーは二つのゴーカイサーベルでワーム達を攻撃。

ゴーカイイエロー「おらおらー！」

次にゴーカイイエローは二つのゴーカイサーベルを振るうと次々にマスカレイド達を切り裂いていく。

ゴーカイグリーン「だだだだー！」

次にゴーカイグリーンは二つのゴーカイガンでアンノウン達を攻撃し、更に素速い動きでゴーカイガンを撃ちまくる。

ゴーカイピンク「はっ！はいっ！」

次にゴーカイピンクは二つのゴーカイガンで華麗に動きながらミラ

ーモンスター達を攻撃。

ゴーカイシルバー「おりゃー！」

次にゴーカイシルバーはゴーカイスピアで周りにいるショッカー戦闘員達を攻撃。

ミューズ「ハァー！」

最後にミューズはマスカレイド達をパンチやキックで攻撃し、マスカレイド達の攻撃を避けながらマスカレイド達を追い詰める。

亮太「ねぇ、あれは？」

ルミナス「あれは海賊戦隊ゴーカイジャー。」

みのり「ゴーカイジャー・・・」

亮太「それにあのプリキュアって・・・」

みのり「でもあのプリキュア、私達を守る為に戦ってるよ！きっとあのプリキュアは味方だよ！そうだよね、奏太。」

奏太「あ、あぁ・・・」

ルミナス「ん？」

三人を心配そうに見つめているルミナス、だが今はゴーカイジャーを見た方が優先した。ゴーカイジャーの周りにいる怪人達は地面に倒れると爆発が起こった。

ゴーカイレッド「残るはテメェだけだな。」

ゴーカイシルバー「もう観念しろ！」

ウェザードーパント「フン、幾ら俺が一人だからって俺を勝つ事が出来ない！」

ウェザーは左腕を上に上げるとゴーカイジャーとミューズの上から雷雲が現れ、雷雲はゴーカイジャーやミューズの周りに囲む。

ゴーカイブルー「フッ、そう来たか。」

ゴーカイジャーはレンジャーバックルを押すとレンジャーキーが現れ、ゴーカイジャーはレンジャーキーを手に取り、ゴーカイシルバーはレンジャーキーをゴーカイセルラーに入れる。

「豪快チェンジ！」

ゴーカイジャーはレンジャーキーをモバイレーツにさし、ゴーカイシルバーはリダイアルを押し、そして・・・

ゴ～オンジャー！

ゴーオンウィングス！

ゴーカイジャーはゴーオンジャー、ゴーカイシルバーは右半身がゴーオンゴールド、左半身がゴーオンシルバーで二つで一つのゴーオンウィングスに変身した。ゴーオンジャーは素速いスピードで抜け出し、ゴーオンウィングスはジャンプで雷雲を抜け出した。

ウェザードーパント「何!?」

ゴーオンブルー「ガレージランチャー!」

ゴーオンイエロー「レーシングバレット!」

ゴーオンブラック「カールレーザー!」

ゴーオンブルーとゴーオンブラックはガレージランチャーとカールレーザーで連続発射し、ゴーオンイエローはレーシングバレットを投げるとレーシングカーのように走り出し、ウェザードーパントに向かって直撃する。更にゴーオンレッドやゴーオングリーン、ゴーオンウィングスが走り出す。

ゴーオンレッド「ロードサーベル!」

ゴーオングリーン「ブリッジアックス!」

ゴーオンウィングス「ジェットダガー!」

ゴーオンレッドとゴーオングリーンとゴーオンウィングスは、ロードサーベル、ブリッジアックス、ジェットダガーでウェザードーパントを攻撃する。ウェザードーパントは地面に倒れるとゴーオンジャーとゴーオンウィングスはゴーカイジャーに戻る。

ミューズ「止めよ!」

ゴーカイレッド「あぁ。」

ゴーカイジャーとミューズはウェザードーパントを止めをさそうとしたその時・・・

トン、トン、トン

ゴーカイレッド「ん?」

何処からか足音が鳴り響いた。その音を聞き、ゴーカイジャーとミューズ、ルミナス達は後ろに振り向くとそこには・・・

ルミナス「ブラック・・・ホワイト?」

ミューズ「メロディ・・・リズム・・・ビート!」

ゴーカイブルー「咲に・・・舞。」

ハイパーショッカーに敗北されたブラックとホワイト、ブルームとイーグレット、メロディとリズム、ビートがいた。彼女達はゆっくりとゴーカイジャーとミューズの元へ・・・

ゴーカイイエロー「何だ。あんた達無事だったんだ。」

ゴーカイシルバー「いや~ホントに心配したんですよ!貴方達がいるなら師匠やゆりさんは無事なんですね?だったら・・・」

ゴーカイピンク「鎧さん、待って下さい!」

ゴーカイシルバー「え?」

するとブラックが拳を握り締めると、ブラックは何とゴーカイシル

バーを・・・

ゴーカイシルバー「がはっ！」

殴り飛ばした。

ゴーカイグリーン「鎧！」

ルミナス「え？何で！？」

ゴーカイイエロー「ちょっと！一体何のつもり！？」

ゴーカイイエローはブラックに近付こうとしたが、ホワイトが何とゴーカイイエローを投げ飛ばした。

ゴーカイイエロー「うあっ！」

ミューズ「あ！」

メロディ「ミューズ。」

ミューズ「え？」

メロディはミューズに近付くと、何とメロディはミューズの腹部を強烈にキックをする。

ミューズ「ぶはっ！キャアアアアア！」

ミューズは血を吐くと、木の所まで吹っ飛んだ。更にブルームとイーグレットはゴーカイブルーとゴーカイグリーン、ブラックとホワ

イトはゴーカイイエロー、ビートはゴーカイレッドを攻撃。何度も何度も攻撃し、ゴーカイジャーは戦う事がなく、追い詰められていく。

ゴーカイピンク「やめて下さい皆さん！どうしてこんな酷い事するのですか！？」

ルミナス「そうですよ皆さん！」

ポルン「ブラック、ホワイト、やめるポポ！」

亮太「ダメだよ。プリキュアは全員、ハイパーショッカーの仲間なんだ。」

ルミナス「え？」

みのり「そうだよ。プリキュアは全員私達の敵！皆ではプリキュアに勝てない！だからプリキュアは信じたくない！」

奏太「そうだ、プリキュアは沢山の人を殺したんだ！」

ルミナス「そんな・・・」

ゴーカイピンク「こんなのって・・・」

ルミナスとゴーカイピンクは奏太達の言葉で理解出来なかった。プリキュアが人殺しをする事は一度もない。プリキュアは人々の笑顔や幸せや希望を守る為に悪と戦い続けていた。そんなプリキュアが敵だって事は正直ありえなかった。するとメロディはミューズの首元を掴み、軽く持ち上げる。

メロディ「ミューズ。私達、出来ればミューズとは戦いたくない。でもミューズ、仲間になれば殺さないよ。」

リズム「そうよミューズ。仲間になれば、一緒に戦う事が出来るよ。」

ミューズ「ふざけ・・・ないで！」

ブルーム「こんな事はしたくないけど、これもハイパーショッカーの命令だよ。」

イーグレット「もう、永遠に地球は平和になる事は出来ない。」

ブラック「正義のヒーローは此処で終わりだね。」

ホワイト「せっかく再会したのに、ごめんなさい。」

ビート「さよなら、ゴーカイジャー。」

ゴーカイレッド「テメェ等！」

地面に倒れたゴーカイジャーはもう戦う力は残っていなかった。ルミナスは助けたいが、今まで仲間だったブラック達と戦う事が出来ない。もう駄目かと思ったその時！

ブラック「ん？」

ブラックは上に振り向くと、空からゴーカイガレオンが降りて来た。

ゴーカイイエロー「ゴーカイガレオン？」

アタックライド、ブラスト！

突如ゴーカイガレオンから電子音が鳴り響くと弾丸が現れ、ブラック達の周りに火花が散る。その隙にゴーカイジャーとミューズは解放した。

ゴーカイピンク「皆さん、大丈夫ですか？」

ゴーカイシルバー「はい。」

ミューズ「それに誰が乗ってるの？」

？？？「待たせたね。海賊の諸君！」

するとゴーカイガレオンから人が出て来た。その人物は体にはシアン、手に持っているのはディエンドライバー、その正体は・・・海東大樹が変身した仮面ライダー、ディエンドだ。ディエンドはゴーカイジャーやルミナス達の前に立つ。

ルミナス「海東さん！」

ゴーカイグリーン「君が操縦したの？」

ディエンド「あぁ。そんな事より、此処は一旦退こう。戦力を立て直すよ。」

ディエンドはケースからカードを出し、そのカードをディエンドライバーに入れる。

アタックライド、フラッシュ！

ディエンドはディエンドライバーをブラック達に向け、引きがねを引くと太陽のようにブラック達を目くらましにさせる。ブラック達は前へ向くと、そこにはもうゴーカイジャーやルミナス達、ゴーカイガレオンの姿はなかった。

ブラック「ちっ、逃げたられたか。」

ホワイト「そろそろ帰りましょ。もうすぐ日が暮れるからね。」

ブラック「あぁ。」

そう言うとブラック達はこの場から去った。それを遠くから見ていたショッカープリキュアは・・・

ショッカープリキュア「・・・」

何故か黙っていた。実は数分前、ショッカープリキュアはゴーカイジャーがハイパーショッカーの戦っている所へ行こうとしたその時、突然光が現れるとショッカープリキュアは白い場所にいた。そこに、ショッカープリキュアはザンギャックとの戦いで行方不明となった赤い戦士、アカレッドがいた。アカレッドはショッカープリキュアに近付く。

アカレッド「君がショッカープリキュアだな？」

ショッカープリキュア「あんたは誰？」

アカレッド「私はスーパー戦隊３５の赤の魂を受け継ぐ者だ。」

ショッカープリキュア「へぇ～、だったら・・・」

アカレッド「待て。君はスーパー戦隊の世界の住人だそうだな。何故こんな事を争う？」

ショッカープリキュア「決まってるじゃない。私はスーパー戦隊を復讐する為に全員のプリキュアを洗脳させ、プリキュア達と一緒にスーパー戦隊を潰すのさ。」

アカレッド「そうか。だが、君にはゴーカイジャーを倒す事は出来ん。」

ショッカープリキュア「何故そう言いきれるの？」

アカレッド「君の憎しみだけではゴーカイジャーを倒す事は出来ない。何故だと思うか？それは、彼等は誇りを持っているからだ。」

ショッカープリキュア「誇り？そんなんで何になるの？」

アカレッド「もうすぐ分かる。」

そう言うとアカレッドはこの場から去ろうとする。

ショッカープリキュア「待ちなさいよ！誇りって何なの？あんたの言ってる事が訳分かんない！それにあんた、一体何なの！？」

アカレッド「君の家族は・・・こんな事を望んでいたのか？」

ショッカープリキュア「え？」

アカレッドの言葉でショッカープリキュアは少し落ち着く。ショッカープリキュアは家族がこんな事を何故復讐なんかしようとした事思っていた。するとアカレッドはこの場から去っていく。

ショッカープリキュア「待って！」

突然光が現れ、ショッカープリキュアは光に包まれると、アカレッドの姿はもうなかった。

ショッカープリキュア「誇り・・・」

元の時間に戻るとショッカープリキュアは消えた。

第１２話：過去の世界へ！

その頃、ゴーカイジャーの世界での宇宙帝国ザンギャックのギガントホースでは・・・

ワルズ・ギル「ん？」

ワルズ・ギルは宇宙を見ると、ギガントホースの目の前に太陽のように光っていた。その光が眩しくなるとギガントホースは光は包まれる。その光が消えるとギガントホースの姿はなかった。

その頃、ハイパーショッカーに支配されたプリキュアの世界のマイナーランドでは・・・

バスドラ「クンクン。」

バリトン「クンクン。」

音符探しをしていた。だが探しても探しても音符の姿はない。そう、此処はハイパーショッカーによってプリキュアの世界が支配され、『伝説の楽譜』に載ってあったはずの音符も消えており、この世界

は音符は存在していない事になってしまったのだ。

ファルセット「おのれハイパーショッカー！」

ファルセットは拳を握り閉め、壁を叩き付ける。ファルセットはハイパーショッカーが勝手に地球を制圧したから音符の存在がなくなった。

ファルセット「行くぞ、お前等。」

バスドラ「ファルセット・・・様、一体何処へ？」

バリトン「しかし探しても音符は何処にも・・・」

ファルセット「音符探しはやめだ。今から俺達は、ハイパーショッカーを潰しに行くぞ！」

その頃、海東とひかりとアイムは傷付けたマーベラス達やアコを背負ぎながらゴーカイガレオンの中へ入る。その中に入っていたのは鎧やアコを助けた武藤アイリとナビィと士達、そして少女がいた。

ナビィ「皆、無事だったんだね。」

???「大丈夫？」

アイリ「フッ、よかった。」

ひかり「貴方達は？」

マーベラス「誰だ？」

アイリ「初めまして、私は武藤アイリ。又はキュアディリーよ。」

御子「私は光明寺御子。又はキュアエルス。」

ジョー「という事は、あんた達もプリキュアか？」

御子「えぇ。」

マーベラス達も自己紹介をし、一応これで自己紹介は終了。亮太とみのりはおどおどとしておりマーベラス達を向かずにずっとイライラな顔をしていた奏太の事はアコが紹介した。二人はマーベラス達と同じくアイリと御子はドリームやピーチ、ブロッサム達に襲われた。士は奏太の事をトイカメラで撮っていた。ブロッサム達の方が圧倒的に強い力で二人は苦戦。危機一発にブロッサム達二人を止めをささずに本部まで帰った事を話した。

ルカ「ねぇ、何でプリキュアの世界があんな事になったの？」

海東「では説明するよ。君達も知っての通り、プリキュアの世界は大きく変わってしまった。今まで僕達ライダーに倒された怪人達と集結した組織、ハイパーショッカーがプリキュアの世界が支配され

てしまった。」

アイリ「ハイパーショッカーはライダーを倒す為にショッカーライトを作り、ショッカーライトでショッカープリキュアを作ろうとした。でもショッカーライトでは何も起こらない。起こらないはずだった。」

御子「しかし、妖精達はミラクルライトを一つだけ落ちてしまい、それを見つけたハイパーショッカーはミラクルライトを拾い、二つのライトが彼女に光を差した事でショッカープリキュアは誕生してしまった。」

海東「その結果、7年前の過去へ飛ばされたプリキュア達はショッカープリキュアの圧倒的強さによって敗北。プリキュア達はハイパーショッカーによって洗脳されてしまった。」

ポルン「ミラクルライト!?」

海東の言葉でポルンとルルンは驚き、ボックスの中に入っている多数のミラクルライトを探す。探した結果、ポルンはこう言った。

ポルン「無いポポ。」

夏海「無いって・・・」

アイム「じゃあ、まさか・・・」

ルルン「ミラクルライトが一個だけ無いルル!」

ミラクルライトは全部で17個のはずだった。そのミラクルライト

が一つだけ無い。一体何故なのか?それはルミナスが妖精達と共にゴーカイジャーの世界へ行く前、あの爆風でルルンが持っている多数のミラクルライトが持っていた箱と共に吹っ飛び、ボックスが開いた瞬間、ミラクルライトは一つだけに落ちてしまったのだ。つまり、この事態になったのはルルンのせいという事になる。

ルルン「ルルンのせいで・・・ルルンのせいで・・・」

ナビィ「ルルンのせいじゃないよ!悪いのはハイパーショッカーだよ!」

ルカ「ナビィの言う通りよ!決して自分のせいでも人のせいじゃないよ!」

ユウスケ「海東、元のプリキュアの世界へ戻す方法は?」

海東「その方法は、7年前の過去に行って歴史を修復するしかない。」

士「成る程、話は早いな。なら早速・・・」

海東「無理だね、デンライナーじゃないと過去へ行く事は不可能だ。」

夏海「だったらどうすれば・・・」

鎧「あ!過去へ行ける方法がありますよ!」

アコ「それ、本当なの?」

鎧「はい！では豪快チェンジ！」

ゴーカイジャー！

鎧は早速ゴーカイシルバーとなり、次にタイムファイアーのレンジャーキーを出してからゴーカイセルラーに入れる。更にタイムファイアーのリダイアルを三回押す。

ゴーカイシルバー「出でよ、豪獣ドリル！」

発進！豪獣ドリル！

すると空からドリルのような機体が現れた。その機体の名は豪獣ドリル。

ハカセ「そうか。タイムレンジャー！」

アイム「タイムレンジャーの力を使って過去へ飛ぶのですね。」

ゴーカイシルバー「その通り！豪獣ドリルを使って過去へ飛ぶんです！」

御子「流石はゴーカイシルバーね。」

ゴーカイシルバー「いや～それ程でも～・・・」

みのり「ねぇ、歴史が修復したらハイパーショッカーはいなくなるの？」

アイリ「えぇ。正しい歴史ではプリキュア達が倒したんだからね。」

ひかり「それ、本当なんですか？」

亮太「じゃあ、俺達普通に暮らせるの？もう襲う奴はいなくなるの？」

アイリ「勿論よ。」

「やったー！」

奏太「俺は信用出来ねぇ！」

そう叫んだのは奏太だった。どうやら海東やアイリの言葉が信じられなかったのだ。

奏太「この三人はプリキュアなんだぞ！こいつ等は俺達の敵だって事忘れたの！？俺は認めねぇ！俺はあんた達の事がぜってぇに認めねぇからな！」

するとアコが奏太の頬を思いっきりビンタした。

アコ「何を言ってるの奏太？そんなにプリキュアが憎いの？」

奏太「当たりめぇーだよ！俺は・・・」

アコ「いい加減にしてよ！私、奏太の事見損なった。奏太がこんな事言うなんて・・・こんなの、こんなの私の知ってる奏太じゃない！私の知ってる奏太はイタズラをするけどホントは優しいの。私は奏太に会えてよかった。私、奏太の事絶対に忘れないの。だからお願い、私達を信じて。」

奏太「お前・・・」

奏太はマーベラス達や皆を見るとマーベラス達は首を下に降る。マーベラス達を見た奏太はそしてこう言った。

奏太「分かった。今回だけは信用してやる。但し忘れるなよ。決してお前等を認めた訳じゃないからな。」

アコ「ありがとう。おじいちゃん。」

音吉「分かってる。私は現代に残るよ。だから奏太君達を頼むぞ。」

アコ「うん。」

そしてマーベラス達とひかりとアコ、御子とアイリと士達はゴーカイジャーやプリキュアやライダーに変身し、ゴーカイシルバーはタイムファイアーのレンジャーキーをさすとワームホールが現れた。このワームホールは過去へ行く事が出来る。

ゴーカイジャー「よし、行くか。7年前の過去へ！」

ディエンド「更に1分前に・・・GO。」

そう言うとゴーカイガレオンと豪獣ドリルはワームホールの中へ入った。プリキュアの世界を救う為に・・・

第１３話：地獄の番人現る！（前書き）

と書いてありますがこの中の三人だけは地獄の番人ではありません。後、今更ですが『第１２話』から夢原信者さんのキャラ、『プリキュアオールスターズ　～伝説の戦士の日常～』又は『プリキュアオールスターズ　～新たな日常と新たな戦い～』から光明寺御子が登場しています。

第１３話：地獄の番人現る！

ハイパーショッカーのアジト

ショッカープリキュアの部屋ではショッカープリキュアは何故か黙っていた。彼女は誰かの言葉によって思い出していたらしい。

『本当はスーパー戦隊を倒すつもりはないんだろ？』

『スーパー戦隊は何の為に戦おうとしたのかお前には分かるはずだ！』

ショッカープリキュア「フン！お前等に何が分かる？私の気持ち、分からないくせに。」

するとショッカープリキュアの机から何かが光った。光が抑まると手紙があった。ショッカープリキュアは手紙を手に取る。

ショッカープリキュア「これは・・・ブラック将軍からの手紙？」

その頃、過去の世界では空からワームホールが現れ、ワームホール

からゴーカイガレオン、豪獣ドリルが現れ、ゴーカイジャーとディケイド達、ルミナス達は降りると変身解除した。

士「着いたか。」

ルカ「でも本当に過去なの？」

アイリ「此処は過去だわ。だってほら・・・」

アイリは指を差した方向へ向くと、そこには何とプリキュア達とイカデビル達が戦っていた所だった。

ハカセ「あれってラブちゃん達？何がどうなってるの？」

御子「此処は過去の世界。というより1分前よ。」

士「成る程な。」

みのり「ねぇ、プリキュアって私達の味方なの？」

アイリ「えぇ、プリキュアは皆の幸せを守る為に世界を支配する悪魔達と戦い続けて来たのよ。」

ルルン「・・・」

ポルン「ルルン。」

ひかり「ポルン、ルルンをそっとしておいて。ルルンは辛いの。」

ルルンはミラクルライトが一つだけ落ちていた事は凄く辛かったの

だ。あの時ミラクルライトを支えていたらこんな事になっていなかったのだった。

士「先ずは俺が一つだけミラクルライトを取り戻す。お前等は此処にいろ。」

海東「僕も行くさ。士にいい所をとる訳にはいかないからね。」

士「フッ、勝手にしろ。」

こうしている間にイカデビルのイカ爆弾で妖精達を攻撃しようとした。だがルミナスはバリアで妖精達を守ろうとしたが、余りにも耐え切れず爆風が発生。それと同時にルルンが持っていた17個のミラクルライトのボックスが少し開くと一本のミラクルライトが地面に落ちる。ミラクルライトが止まると何かが持ちに行ったかのようにミラクルライトが宙が浮き始め、マーベラス達の所に・・・そう、これはディエンドのインビジブルカードだ。海東は姿を現れすとこれで歴史の修復は完了。

海東「これで一件落着だね。」

士「結局、海東に美味しい所を持っていきやがった。今度こそは・・・」

すると海東は何かを感じたかのように動きが止まった。それと同時に士も動きが止まった。海東は誰かいるかのように確かめる。そして海東は後ろに振り向くと、海東や士の周りに火花が散ると、海東が持っていたミラクルライトを離してしまった。それを見たマーベラス達は二人の所へ駆け寄る。ミラクルライトは何と十面鬼が拾った。

十面鬼「ついに見つけたぞ、ミラクルライト。」

士「十面鬼！」

十面鬼「久し振りだな。ディケイドにディエンド、そしてクウガ。」

海東（そうか。此処は過去だから僕達と久し振りに会うか。）

十面鬼「地獄はこれからだ。出でよ！」

すると十面鬼の周りから多数のショッカー戦闘員とマスカレイドドーパントと屑ヤミーが現れた。

ひかり「そのミラクルライト、絶対に貴方達には渡せません！」

海東「クイーンは下がってろ。君じゃ足手まといだ。行くぞ士、夏海、ユウスケ。」

夏海「はい、キバーラ。」

キバーラ「フフフ、行くよ♪」

ユウスケ「あぁ！」

士「俺に命令するな。ったく～・・・」

士はディケイドライバーを出し、ディケイドライバーを腰に付ける。
ユウスケは手を腰に包むとアークルが現れ、海東はライドカードをディエンドライバーにさし、夏海はキバーラを手で掴む。

士「お前等の好き勝手にはさせない。俺達の未来は絶望じゃない、希望だ。」

士はライドカードを出し、カードを裏向けてからディケイドライバーを中に入れると・・・

「「「変身！」」」

カメンライド、ディケイド！

カメンライド、ディエンド！

士はディケイド、海東はディエンド、ユウスケはクウガ、夏海はキバーラ（ライダー）に変身した。

ディエンド「君達はじっとしたまえ。」

早速ディケイド達は十面鬼と戦闘員達と立ち向かう。ディエンドは戦闘員達、ディケイドは十面鬼に立ち向かう。ディケイドは十面鬼の攻撃に喰らいながらも、ディケイドは十面鬼に攻撃する。そして十面鬼の手に持っていたミラクルライトを落とす。

十面鬼「しまった！」

ひかりはすぐミラクルライトを拾う。

ディエンド「マーベラス君！クイーンと一緒に逃げろ！」

マーベラス「あぁ。ってお前に命令される気はねぇんだよ！」

鎧「とにかく今の内に！」

マーベラス達はひかりや奏太達を連れて安全な場所へ移す。

十面鬼「逃がすな！追え！」

ショッカー戦闘員達はマーベラス達を追おうとしたが、ディエンドやクウガ、キバーラ（ライダー）に妨害される。

ディエンド「そうはさせないよ。」

ディケイド「十面鬼、今度は容赦しないぞ。」

十面鬼「くっ、ならば・・・」

すると十面鬼はショッカーライトを出すと、ショッカーライトは十面鬼に向けて反射すると十面鬼の体から光った。

十面鬼「ぐっ、うおおおおお！」

ディケイド「何だ？あの光は？」

十面鬼「うおおおおおおお！」

その頃、現代ではハイパーショッカーが地球を襲撃し始める。ウェザードーパントやナスカドーパントはゆっくり歩きながら多数のショッカー戦闘員やグロンギやワームやマスカレイド、屑ヤミーが人々に襲いかかる。音吉と藤田アカネは安全な場所へ隠れる。

音吉「希望を信じよう。」

アカネ「え？」

音吉「世界は必ず、救世主が救うはずだ。」

アカネ「救世主・・・」

すると半数のショッカー戦闘員が倒れ始める。ショッカー戦闘員が倒れるとバリゾーグとインサーンや多数のゴーミンやスゴーミンがおり、更にバスドラとバリトンが半数のマスカレイドや屑ヤミーを追い払う。

ウェザー「何だ貴様等は？」

するとバリゾーグとインサーンの横から皇帝のバカ息子、ワルズ・ギルが現れ、更にバスドラとバリトンの横からファルセットが前に出た。

アカネ「何あれ？」

音吉（あれは、マイナーランド！何故こんな所に！？それに、あい

つ等は一体？）

ワルズ・ギル「よく聞け！ハイパーショッカーとかいう奴等よ！俺は宇宙帝国ザンギャックの皇帝ワルズ・ギル！勝手に地球制圧させる訳にはいかん！地球制圧をするのは我々ザンギャックだ！」

ファルセット「いや、そうはさせない。地球制圧というより不幸の楽譜（メロディ）で世界中を悲しみに包まれるのが先だ。」

ワルズ・ギル「何？」

ファルセット「自己紹介、まだだったんだな？俺はマイナーランドのリーダー、ファルセットだ。」

ワルズ・ギル「フン。ファルセットだがリセットだが知らんが貴様等もハイパーショッカーと共に消え去るがいい！」

ファルセット「消え去るのはお前等の方だ。」

ワルズ・ギル「何を！バリゾーグ！インサーン！やれ！」

バリゾーグ「イエスボス。」

インサーン「お任せを。」

ウェザー「フン、やれ！」

ウェザーがそう言うとショッカー戦闘員とグロンギとワームとマスカレイドと屑ヤミーは一斉に走り出す。それと同時にバリゾーグやインサーン、ゴーミンとスゴーミン、バスドラやバリトンも一斉に

走り出し、三つの組織とぶつかり合った。

その頃、過去の世界ではマーベラス達はひかり達と一緒にハイパーショッカーから振り切ろうとするが、マーベラス達の目の前にはグリードのカザリとグロンギのヅ・バヅー・バとドラゴンオルフェノクとウカワーム、多数の怪人達がいた。もはやもう逃げられない状態であった。

アコ「囲まれた。」

ひかり「奏太君。」

奏太「ん?」

ひかりは奏太の手を掴んで奏太にミラクルライトを渡す。

ひかり「お願い。」

ルカ「マーベラス、どうすんの?」

マーベラス「くっ、仕方ねぇ。行くぞ!」

ポルン「ひかり、変身するポポ！」

ひかり「うん！」

「豪快チェンジ！」

「ルミナス！シャイニングストリーム！」

「レッツプレイ！プリキュア、モジュレーション！」

「プリキュア！スキャニングチェンジ！」

「プリキュア！ライトニングトランス！」

ゴ～カイジャー！

キュアライド、ディリー！

マーベラス達はゴーカイジャー、ひかりとアコ、アイリと御子はプリキュアに変身した。ショッカー戦闘員達はゴーカイジャーとプリキュアを襲うとしたその時。

？？？「ベガスラーッシュ！」

突如誰かの声が聞こえると、ショッカー戦闘員達は何処からの攻撃で倒れ始めた。ゴーカイレッドは上を見ると二人の影が現れ、ゴーカイジャーとプリキュアの前に立った。

ゴーカイグリーン「だ、誰？」

ゴーカイシルバー「あ！貴方達は！」

？？？「久し振りだな、ゴーカイジャー。」

ゴーカイレッド「この声は、まさか！」

姿を現したのは、ゴーカイジャーを逮捕しようとしたデカマスター。
又の名はアヌビス星人のドギー・クルーガー。そしてもう一人は天空聖者、ブレイジェルと呼ばれる赤い騎士、ウルザードファイアー。
彼等はレジェンド大戦によって変身能力が失ったはずだったが・・・

ルミナス「スーパー戦隊。」

ゴーカイグリーン「嘘だ。だってレンジャーキーは此処に・・・」

ゴーカイグリーンはデカマスターとウルザードファイアーのレンジャーキーを出す。確かにゴーカイグリーンの言う通り、レンジャーキーがなければゴセイジャーやハリケンジャーのように力を取り戻す事が出来ない。そんな彼等が何故力を取り戻していたのか？

デカマスター「話は後だ。先ずはハイパーショッカーの戦いを集中するぞ！」

カザリ「ふ～ん、二人が増えたからって僕達に勝てると思ってるの？」

ウルザードファイアー「二人？それはどうかな？」

ヅ・バヅー・バ「何？」

？？？「プリキュア！ダークドリームアタック！」

？？？「ダークフォルテウェイブ！」

？？？「プリキュア！フラワーカーニバル！」

？？？「ブリンガーソード！」

？？？「獣奏剣！」

？？？「ＤＶディフェンダー！」

？？？「ウィングペンダント！」

？？？「臨技！剛勇吼波！」

？？？「臨技！無効消波！」

突如また誰かの声が聞こえ、半数のショッカー戦闘員とグロンギとワーム、マスカレイドや屑ヤミーが消滅した。

？？？「久し振りだな、伊狩鎧。」

？？？「よぉ、ゴーカイジャー。」

？？？「間に合ってよかったね♪」

ミューズ「貴方は・・・」

ゴーカイレッド「・・・」

ゴーカイシルバー「まさか！」

ゴーカイジャーとプリキュアの前には、
キュアドリームの友達ダークドリームと
キュアムーンライトのライバルであったダークプリキュアと
つぼみの祖母花咲薫子ことキュアフラワー。
そしてジェットマンの結城凱ことブラックコンドルと
ジュウレンジャーのブライことドラゴンレンジャーと
タイムレンジャーの滝沢直人ことタイムファイアーと
アバレンジャーの仲代壬琴ことアバレキラーと
元臨獣伝アクガタの黒獅子リオとカメレオン拳使い魔メレが姿を現した。

ゴーカイレッド「結城凱。」

ブラックコンドル「世界が危機をさらしている事を聞いていたから俺達は此処に来たぜ。」

ゴーカイブルー「フン、余計な真似を・・・」

黒獅子リオ「久し振りにやるか、メレ。」

メレ「はい、里央様。」

ゴーカイイエロー「あれが鎧に三つの大いなる力を貰った仲代壬琴？」

ゴーカイシルバー「はい！まさか此処で会えるなんて光栄です！」

アバレキラー「感心してる場合じゃないだろ。」

ドラゴンレンジャー「悪いが、サインは後にしてくれ。」

タイムファイアー「先ずこいつ等を倒すのを優先しろ。」

ゴーカイシルバー「あ、はい！」

ディリー「ダークドリームにダークプリキュア、どうして此処に？」

ダークドリーム「私、見たくないの。のぞみが人を襲う事はもう見たくない！だから私は歴史を修復する為にダークプリキュアやアバレキラーと一緒に過去の世界に来たの。」

ダークプリキュア「月影ゆりがああなった以上は、見過ごす訳にはいかない。」

エルス「二人とも、一緒にやるんだね？」

ダークドリーム「うん。」

ダークプリキュア「あぁ。」

ミューズ「ルミナス。奏太達をお願い。」

ルミナス「分かりました。」

ルミナスは奏太達を連れて安全な場所へ移す。

ゴーカイレッド「よし、派手に行くぜ！」

全員「おう！」

ゴーカイジャーとプリキュアとデカマスターとウルザードファイアー、そして地獄の番人との戦いが始まる。

第１３話：地獄の番人現る！（後書き）

？？？「次回からやっと私の出番ね。待ってて、大樹。」

次回はようやくＧＡＳＨさんことＡＬＳＴ　Ｇさんのキャラが登場します。ヒントはゴーカイジャーをモチーフにしたプリキュア・・・

第１４話：海賊プリキュア（前書き）

ＡＬＳＴ　Ｇさん、お待たせしました。遂にキュアパイレーツ、登場です。

第１４話：海賊プリキュア

過去の工場の外

十面鬼「ぐっ、おおお・・・」

光が止むと、ディケイドは十面鬼に変わりはなかったと思ったが、十面鬼の様子がおかしい。そう考えていると十面鬼はゆっくりとディケイド達に近付く。すると十面鬼は立ち止まった。

十面鬼「フン。」

すると十面鬼の姿は消えた。ディケイド達は周りを捜すが、十面鬼の姿はない。逃げたのかと思っているとクウガとキバーラ（ライダー）の後ろから火花が散り、二人は地面に倒れる。

ディケイド「ユウスケ！夏海！ぐあっ！」

何とディケイドの後ろからも火花が散り、地面に倒れる。まるで誰かに攻撃されたようなものだ。
そしてディエンドは確信した。十面鬼はショッカーライトの力でヒルカメレオンの力をコピーした。それだけではない、今までライダーに倒された怪人達のコピー能力を使う事が出来る。十面鬼は姿を消し、ディケイド達を倒す事。それに気付いたディエンドは三枚のライダーカードを出し、ディエンドライバーに入れる。

カメンライド　イクサ！　バース！　プロトバース！

ディエンドはディエンドライバーの引きがねを引くと突如三人のラ

イダーが姿を現した。
白いライダーは『キバの世界』でファンガイアを倒す為に作られたライダー、イクサ。
もう一人のライダーは、『オーズの世界』でセルメダルを使って変身や武器を使いこなすライダー、バース。
そしてもう一人のライダーは、姿と威力はバースと同じだが、武器は二つしか使う事は出来ないライダー、プロトバースだ。

ディエンド「さぁ、行きたまえ。」

イクサ「その命、神に返しなさい。」

プロトバース「んじゃ、稼ぎますか。」

バース「無茶しないで下さい。」

プロトバース「フッ、分かってるよ。」

イクサは十面鬼は何処にいるのかサーチで調べる。そしてピピッ！となると十面鬼の場所を突き止めた。イクサはイクサカリバー・ガンモードで攻撃。それと同時にバースとプロトバースもバースバスターで一斉攻撃。すると十面鬼が姿を現し、ダメージを喰らったのかと思いきや、十面鬼の体は何ともなかった。

十面鬼「そんな攻撃、効かんな。」

ディエンド「そんな！」

十面鬼「ハァァァ・・・むん！」

十面鬼は右腕を構えてから次に右腕を前につけると、手から疾風のようなものを吹く。ディケイド達は疾風に堪えようとしたが、あまりにも疾風が強過ぎて堪え切れず、ディケイド達は壁まで吹っ飛んだ。地面に倒れるとイクサとバース、プロトバースは消えてしまった。

クウガ「何だ今のは？」

キバーラ（ライダー）「急にパワーが・・・」

ディエンド「今のはゴセイジャーの天装術、ツイストルネードだ。何故だ？ショッカーライトは怪人達のコピーをするはずじゃ・・・」

十面鬼「そう思ったか？教えてやろう。ショッカーライトは怪人達のコピーが出来る。だが、首領が改造したショッカーライトでライダーや怪人のコピー能力を使うだけではなく、スーパー戦隊やプリキュアのコピー能力を使う事が出来るのだ。」

ディケイド「成る程な。相当に厄介な物作った訳って事か？だが、そう甘くはないぜ？」

十面鬼「フン。」

その頃、ディケイド達と十面鬼の戦っている所を見ている人影がいた。その人影の正体はかつてデカレンジャーと戦った事があり、今までの犯罪を起こした宇宙人、エージェント・アブレラだった。アブレラの周りには多数のアーナロイド達がいた。

アブレラ「行くぞ。」

アブレラとアーナロイド達はディケイド達の戦いを割り込もうとしたその時。

???「待ちなさい。」

すると誰かの声が聞こえ、アブレラとアーナロイド達は後ろに振り向くと、そこには謎の少女がいた。髪型は長い深紅と片目に目帯を付けた少女、まるで海賊のようなプリキュアだった。

???「これ以上、大樹の邪魔はさせないわ。」

アブレラ「貴様、何者だ?」

???「私は・・・変革を呼ぶ自由の海賊、キュアパイレーツ。」

アブレラ「キュアパイレーツ?」

キュアパイレーツと名乗った後、右手にはゴーカイサーベルと同じだが、海賊の絵柄ではなくハートの絵柄である武器、キュアサーベル。左手にはゴーカイガンと同じだが、ゴーカイサーベルと同様、ハートの絵柄である武器、キュアガンだ。

パイレーツ「派手に行くわ。」

パイレーツはそう言うとキュアガンをアブレラ達に向けて撃ちまくる。

アブレラ「ぐっ、やれ！」

アーナロイド達「ウィーン！」

アーナロイド達は走り出し、パイレーツはゆっくりアーナロイド達に近付く。アーナロイドは攻撃するが、パイレーツは攻撃に避け、次にキュアサーベルでアーナロイド達を攻撃し続ける。次にキュアガンで二人のアーナロイドを攻撃すると火花が散る。そしてパイレーツはプリキュアキーを出し、キュアサーベルについてるゴーカイシリンダーではなく、キュアシリンダーにさすと・・・

ファ～イナルウェイ～ブ！

パイレーツ「キュア・・・スラッシュ！」

必殺技が発動した。多数のアーナロイド達はパイレーツに近付いて攻撃しようとしたが、パイレーツは上手くかわしながらアーナロイド達を切りまくる。パイレーツはアーナロイド達を切り終えるとアーナロイド達は全滅した。

アブレラ「ば、馬鹿な！」

パイレーツ「メイドの土産よ、おもしろい物見せてあげるわ。」

パイレーツはプリキュアキーとキュアモバイラーを出す。

パイレーツ「プリキュアチェンジ。」

プリキュアキーをキュアモバイラーに差し込み、モバイラーを前に出す。

キュ～アセイバー！

パイレーツは別のプリキュアに変身した。そのプリキュアはなぎさ達には見た事がないプリキュア、キュアセイバーだ。

アブレラ「何！？」

セイバー「ま、これは海賊版だと思ってちょうだい。」

セイバーは走り出すと、右脚から炎が吹き出し、セイバーは高くジャンプした。

セイバー「プリキュア！セイバーキック！」

アブレラはセイバーの必殺技を喰らうと空まで吹っ飛んだ。次にセイバーはプリキュアキーとキュアモバイラーを出す。

セイバー「最後もド派手に行くよ！プリキュアチェンジ！」

プリキュアキーをキュアモバイラーに差し込んでからキュアモバイラーを前に出す。

キュ～アナイト！

キュアセイバーは別世界のプリキュア、キュアナイトに変身した。
ナイトはイリュージョンロッドを出してから構える。

ナイト「ナイトシュート！」

ナイトの必殺技が発動した。イリュージョンロッドから放った光線がアブレラに直撃した。

アブレラ「そんな！この私がー！」

アブレラは叫びながら大爆発が起こった。アブレラを倒したナイトはパイレーツに戻った。

パイレーツ「もう少しだけ待って大樹。私は、皆を救わなくちゃいけないから。」

パイレーツはそう言うとパイレーツはこの場から去った。彼女は何故、ディエンドこと海東大樹の事を知ってるのか？果たして海東と彼女の関係は一体何なのか？

その頃、ルミナスは奏太達を安全な場所へ隠れた。ルミナスはゴーカイジャーとミューズ達が戦っている隙に奏太達と一緒に怪人達か

ら振り切ろうと必死だったのだ。

ルミナス「大丈夫？」

奏太「どうして・・・」

ルミナス「ん？」

奏太「プリキュアは何で俺達を助けるんだ？プリキュアは俺達の敵なのに・・・」

するとルミナスは奏太の肩を掴んだ。

ルミナス「それは、皆の幸せや笑顔を守る為に色んな悪魔と戦って来たんです。最初は訳が分からない事はあるけど、でもプリキュアは決して迷う事はなくプリキュアとして戦い続けて来たの。私だって同じ、私はプリキュアの仲間だから。」

奏太「仲間？」

ルミナス「ウフッ。」

ルミナスは奏太達に笑顔を見せた。亮太とみのりはプリキュアの事を信じた。でも奏太はプリキュアが人々を守る事は信じていない。ルミナスは奏太を励まそうとしたその時・・・

ドーン！

壁から多数のショッカー戦闘員やクライシス戦闘員やマスカレイドドーパントや屑ヤミー、そしてイーグルアンデッドやパラドキサア

ンデッドや3体のモールイマジンやウヴァがいた。パラドキサアンデッドは鎌でルミナスの右腕に攻撃した。

ルミナス「キャー！」

ポルン「ルミナス！」

ルミナスの右腕から血が流れていた。奏太達は逃げ場もなく、怪人達に囲まれる。丁度その頃、ゴーカイジャーとブラックコンドル達とミューズ達が戦いながら着いた。そしてゴーカイレッドはルミナスを見た。

ゴーカイレッド「ひかり！退け！」

ゴーカイレッドは怪人達に攻撃しながらルミナスの所へ駆け寄ろうとするが、ヅ・バヅー・ダとカザリがゴーカイレッドを抑えた。

ゴーカイシルバー「マーベラスさん！」

ダークプリキュア「くそっ！」

イーグルアンデッドはルミナスや奏太達と一緒に止めをさそうと準備した。

ゴーカイレッド「やめろー！」

そしてイーグルアンデッドはルミナスに止めをさそうとしたその時！

「「マックスー！」」

突如誰かの声が聞こえると、何処かのビームがイーグルアンデッドに直撃すると壁まで吹っ飛ぶとイーグルアンデッドは爆発した。

ゴーカイピンク「今のは？」

ゴーカイイエロー「何？」

ゴーカイグリーン「ん？」

ゴーカイグリーンは２１人の少女が此処まで走って来る事に気付いた。

ゴーカイブルー「あれは・・・」

ダークドリーム「あれは、まさか！」

アバレキラー「きっとそうに違いないな。」

２１人の少女の正体はハイパーショッカーによって洗脳された筈のキュアブラックやキュアホワイト。
キュアブルームやキュアイーグレット。
キュアドリームやキュアルージュ、キュアレモネードやキュアミント、キュアアクアやミルキィローズ。
キュアピーチやキュアベリー、キュアパインやキュアパッション。
キュアブロッサムやキュアマリン、キュアサンシャインやキュアムーンライト。
キュアメロディやキュアリズム、キュアビートの姿だった。

第１４話：海賊プリキュア（後書き）

まだまだパイレーツの出番がありますのでご安心下さい。

第15話：プリキュア集結！

ルミナス「なぎささん！ほのかさん！」

ゴーカイレッド「お前等・・・」

ブラックとホワイトはルミナスの所へ駆け寄る。

ブラック「ひかり、大丈夫？」

ルミナス「はい！」

ホワイト「私達の歴史を修復する為に未来から来てくれたんだね。」

ルミナス「え？」

ブラックとホワイトは何故か未来を救う為に歴史を修復しに来たという事を知っていた。いや、知っているのは二人だけではない。ブルーム達も知っていたのだ。

ゴーカイブルー「何故知ってる？それにどうやってあの怪人達から逃れた？」

ブルーム「あの7人が私達を助けてくれたの。」

ゴーカイイエロー「あの7人？」

ブラック達はどうやってあの怪人達から逃がれたのか？あの7人というのは何なのか？30秒前にさかのぼる。

ブラック「こいつ等、強過ぎる。」

ブラック達はイカデビル達と何度でも戦うが、全く歯が立たなかった。

ドリーム「このままじゃ、私達が・・・」

ピーチ「でも、絶対に負けない！」

シャドームーン「無駄だと言う事が分からんのか？」

ブロッサム「私達はまだ諦めません！貴方達に私達の未来は絶対に渡しません！」

ジェネラルシャドウ「ほざいていろ虫ケラ共。どうせ私達に勝つ事は不可能だからな。」

ジェネラルシャドウはシャドウ剣をキュアブラックに向けた。

ブラック「くっ・・・」

ブルーム「ブラック！」

ジェネラルシャドウ「死ね！」

ジェネラルシャドウはシャドウ剣でキュアブラックに止めをさそうとしたその時。

？？？「ライダーキーック！」

突如誰かの声が聞こえると、ジェネラルシャドウは誰かいる事を感じブラックから離れた。するとブラックの前から一人、いや7人の戦士がいた。

メロディ「あれは・・・」

ローズ「あれってもしかして・・・」

ビート「きっとそうよ！」

その正体は・・・伝説と語り継がれる仮面ライダー、一号と二号。更に仮面ライダーV3にライダーマン、Xやアマゾン、ストロンガーがいた。そう、彼等はデルザー軍団から人々を守った『栄光の7人ライダー』と呼ばれた戦士達だ。彼等はある彼女からプリキュアの世界がハイパーショッカーの危機にさらされている事を聞き、彼等はプリキュアの世界を守る為、7年前にやって来たのだ。

ビート「本郷さん！一文字さん！」

一号「うん。」

ヒルカメレオン「ライダー！何故貴様等が此処にいる！？」

一号「俺達は彼女から事情を聞いた。ハイパーショッカー、お前達の野望は・・・俺達が打ち砕く！」

ガラガランダ「くっ、おのれー！」

V3「プリキュア！此処は俺達に任せて歴史を修復する為に未来か

らやって来たゴーカイジャーやクイーン達の所へ行け！」

ミント「え？」

ライダー達は何故かゴーカイジャーやルミナス達が未来から来た事を知っていた。

マリン「あんた達はどうすんの！」

ライダーマン「俺達はこいつ等を食い止める！さぁ、早く行け！」

レモネード「でも！」

X「俺達は大丈夫だ。さぁ、早く！」

ブラック「・・・」

するとブラックは拳を握り閉めるとブラックはある決断を下す。それは・・・

ブラック「分かった、死なないで。仮面ライダー。」

アマゾン「うん。アマゾン、プリキュアとトモダチ。」

ブラック「皆、行こう。ルミナスやマーベラス達を助けに！」

「うん！」

するとアカルンが現れるとアカルンから鍵みたいな物になり、リンクルンにさすと、パッケージが開いた。

パッション「さぁ、行くよ。ゴーカイジャーやルミナスの所へ！」

するとプリキュア達全員は赤い光に包まれると、プリキュア達は消えた。

ストロンガー「頼むぞ。」

ベリー「という訳よ。」

ゴーカイグリーン「そうなんだ。」

ゴーカイピンク「仮面ライダーさんはどうなったのですか？」

パイン「きっと大丈夫です。仮面ライダーは絶対に負けはしません。」

ゴーカイイエロー「話は終わったようね。早くこの状況を何とかしないと・・・」

話をしていたら何時の間にかゴーカイジャーとブラック達は怪人達の周りに囲まれていた。

メロディ「ミューズ、行ける？」

ミューズ「勿論！」

ブラックコンドル「とにかく5分以上だ。行くぞ！」

ゴーカイレッド「あぁ！」

ブラック「ルミナス、亮太をお願い。」

ブルーム「みのりも！」

リズム「奏太を守って！」

ルミナス「はい！」

奏太達は今思った。何故プリキュアは奏太達の知っているのか？何故プリキュアは奏太達を守ろうとしていたのか？少しずつ三人の記憶が浮かび始めた。プリキュア達は皆の笑顔を守る為に色んな悪魔達と戦って来た。プリキュアは人殺しをした事は一回もない。亮太はなぎさにコブラツイストを喰らったり、追いかけられた事や、みのりは咲の手伝いをした事や、奏太は奏に怒られたり、ワサビ入りケーキを響に奏に食べさせた事があった。そして、三人はプリキュアが敵ではない事が分かり、三人の記憶が戻った。三人は本当の敵はハイパーショッカーだとやっと分かったのだ。

ゴーカイレッド「一気に片を付けるぞ！」

ゴーカイジャーはレンジャーバックルを押すとレンジャーバックル

から5色の光が一つになると、ゴーカイガレオンバスターが現れた。

ゴーカイレッド「ゴーカイガレオンバスター！」

ルミナス「マーベラスさん、これを・・・」

ルミナスの手元には見た事がないレンジャーキー・・・いや、これはプリキュアの大いなる力を持つレインボーキーだった。ゴーカイレッドはレインボーキーを手に取る。ゴーカイレッドはルミナスを見るとルミナスは首を下に降る。

ゴーカイレッド「あぁ。」

「レンジャーキー、セット！」

ゴーカイブルーとゴーカイイエローのレンジャーキーを左からさし、ゴーカイグリーンとゴーカイピンクのレンジャーキーを右からさし、最後にレインボーキーをさす。

レインボーチャージ！

5つのキーをさすとエネルギーをチャージし、ゴーカイレッドとルミナスはゴーカイガレオンバスターを持つ。

更にゴーカイレッドの左肩からゴーカイブルーとゴーカイイエローが掴み、

ルミナスの右肩からゴーカイシルバーとゴーカイグリーンとゴーカイピンクが掴んだ。

「ゴーカイガレオンバスター！」

ラ～イジングストラ～イク！

ゴーカイガレオンバスターが発射すると虹色のゴーカイガレオン型のビームが現れ、ヅ・バヅー・バやドラゴンオルフェノクやパラドキサアンデッドやウカワームや3体のモールイマジンやカザリやウヴァ、そして怪人達に直撃した。直撃すると怪人達から大爆発が起こった。

ブラックコンドル「ったく～美味しい所を持ってかれたぜ。」

黒獅子リオ「行ぐぞ。」

メレ「理央様、行くって何処へ？」

黒獅子「決まっている。あのバーコードライダーの所へ行くぞ。」

ルージュ「バーコードライダー？」

ミューズ「あ、そっか。忘れてた！」

エルス「早く行こう！」

ディリー「うん！」

そう言うとゴーカイブルーやブラック達は訳が分からないまま、ブラックコンドル達もディケイド達の所へ向かった。

ゴーカイシルバー「あ、せつなちゃん！」

ゴーカイシルバーはパッションの名前を呼ぶとパッションはピタッ

と止まった。

パッション「やっと私の名前を呼んでくれたのね、鎧。」

パッションはゴーカイシルバーに笑顔を見せると、ゴーカイシルバーは少し赤くなった。ゴーカイシルバーは少し恥ずかしかった。

パッション「さ、行こ。」

ゴーカイシルバー「はい！」

パッションとゴーカイシルバーも一緒にディケイド達の所へ・・・

ゴーカイレッド「俺達も行くぞ。」

ルミナス「あの、マーベラスさん！」

ルミナスはゴーカイレッドを呼ぶと、ゴーカイレッドはルミナスを見た。

ゴーカイレッド「何だ？」

ルミナス「あの・・・私、マーベラスさんの事・・・」

ゴーカイレッド「ん？」

ルミナス「えっと・・・私、マーベラスさんの事が・・・す、す・・・」

ゴーカイグリーン「マーベラス、早く！」

ゴーカイレッド「あ、あぁ。話は後だ、行くぞ。」

ルミナス「・・・」

ルミナスはゴーカイレッドの事が心配であり、もしゴーカイレッドに何かあったらどうなるのか悩んでいた。

ポルン「ルミナス、早く一緒に行くポポ！」

ルルン「早くルル！」

ルミナス「う、うん。」

ルミナスもゴーカイレッドと一緒にディケイド達の所へ・・・

工場の外

ディケイド「何だこの強さ?まともじゃねぇぞ。」

ディケイド達は十面鬼と戦うが、ディケイド達は十面鬼に押されていた。

十面鬼「どうしたディケイド？さっきの勢いは何処行った？」

するとゴーカイジャーやブラック達、ディリーやエルス、ブラックコンドル達がやって来た。

ディケイド「あれが・・・プリキュア。」

そう、ディケイド達はプリキュア達と出会うのはこれが初めてなのだ

ディエンド「君達、ミラクルライトは無事か？」

ディエンドがミラクルライトの事を言うと奏太は早速ミラクルライトを出す。どうやらミラクルライトは無事のようだ。しかし十面鬼はナスカ・ドーパントの能力、超高速でゴーカイジャー達の所へ近付き、十面鬼は何と奏太が持ってるミラクルライトを奪い取ってしまった。

ルミナス「あ、ミラクルライトが！」

十面鬼「フハハハハ、ついに手に入れたぞ。ミラクルライト！これでプリキュアの世界が支配する事が出来るぞ！ハハハハハ！ディケイド、此処が貴様の墓場になる！」

十面鬼は超高速でミラクルライトを持ったまま、逃げてしまった。

ゴーカイピンク「そんな。」

ポルン「もう終しまいポポ。ひかり達の世界がハイパーショッカーに・・・」

キバーラ（ライダー）「何とかならないのですか？」

ブラックコンドル達は考えた。ハイパーショッカーのアジトは何処なのか分からない。このまま探し続ければ、ショッカープリキュアは誕生し、世界がまた支配される事になってしまう。だが・・・

ムーンライト「皆、大丈夫よ。」

マリン「え？」

サンシャイン「何が大丈夫なの？」

ムーンライト「話は全てクエルスやディリーから聞いたわ。本物のミラクルライトは、これよ。」

ムーンライトの手には何と、十面鬼が奪い取ったはずのミラクルライトがあった。

ゴーカイイエロー「これって・・・」

ドラゴンレンジャー「どういう事だ？」

ムーンライト「十面鬼が持っていったミラクルライトは、発信器を付けた偽物よ。」

全員は少し驚いた。

タイムファイアー「何の為に？」

ムーンライト「十面鬼は必ずショッカー首領という奴に届くはず。だからアジトを探る為にすり替えたのよ。」

ゴーカイブルー「流石だな。」

ルルン「キュアムーンライト、凄いルル！」

ディリー「これで、ミラクルライトがハイパーショッカーの手に渡らなくなったね。」

エルス「ハイパーショッカーを倒せば、歴史を修復出来るね。」

クウガ「で、これからハイパーショッカーのアジトへ行くんだな？」

ローズ「勿論。」

ダークドリーム「のぞみ・・・」

ドリーム「一緒にやろう、ダークドリーム。だって私達、友達じゃん。」

ダークドリーム「うん。」

フラワー「つぼみ。」

ブロッサム「はい。」

奏太「アハッ。」

奏太は笑顔を皆に見せた。そう、奏太が笑顔になったのはこれが初

めて。それを見た亮太とみのりも笑顔を見せた。勿論二人も笑顔を見せたのが初めてだった。

ダークプリキュア「行くぞ、ハイパーショッカーのアジトへ・・・」

ゴーカイレッド「あぁ。」

ルミナス「・・・」

ゴーカイジャーやプリキュアオールスターズ、ディケイド達とブラックコンドル達はハイパーショッカーのアジトへ向かった。未来を救う為に・・・

第１６話：ルミナスの想い（前書き）

ひかりごめん！本当はこんな事したくなかった！ホントにごめん！

第16話：ルミナスの想い

奏太達はひとまずゴーカイガレオンへ残る事になった。理由はもし危険な可能性があるからゴーカイレッドは奏太達に残れと言われたのだ。

奏太「まさかあの綺麗な湖の地下にハイパーショッカーのアジトがあったなんて・・・俺も行きたかったな～。」

亮太「でもお姉ちゃんやほのかさん、僕達に心配かけたくないから此処に残っているかもしれないよ。」

みのり「私も行きたかったけど、今はお姉ちゃんを信じよ。」

奏太「あぁ。」

その頃、ゴーカイジャーやプリキュア、ディケイド達とブラックコンドル達はハイパーショッカーの本部を探していた。ムーンライトは探索機で発信器をつけたミラクルライトなら本部は何処なのか分かるはずだ。探してる途中、多数のアンノウンやミラーモンスターやファンガイアがゴーカイジャー達の周りから現れた。

ゴーカイイエロー「またあんた達？いい加減にしてよ。」

ムーンライト「仕方ないわ。なら・・・ん？」

するとブラックコンドル達とダークドリームやダークプリキュアやキュアフラワー、クウガやキバーラ（ライダー）が前に出た。

ゴーカイレッド「何の真似だ？」

デカマスター「ゴーカイジャーやプリキュア、そしてディケイド。此処は我々に任せてくれ。」

メロディ「な、何言ってるの？」

ビート「そうよ、貴方達を置いてく訳・・・」

メレ「私達は大丈夫よ、理央様さえいればそれでいいの。」

アバレキラー「未来を救うんだろ？だったら早く行け。」

ゴーカイシルバー「壬琴さん・・・」

本当はプリキュアの世界を守る為にハイパーショッカーの本部に行きたいが、歴史を修復出来るのはゴーカイジャーとプリキュア、ディケイドやディエンドしかいないと考えていただろう。

ディケイド「夏海、ユウスケ。必ず帰って来る。」

クウガ「あぁ。」

キバーラ（ライダー）「気を付けて下さい、士君。」

ディケイド「あぁ。」

ドリーム「皆、ダークドリームや凱さんの為に、行こう！」

「うん！」

そう言うとゴーカイジャーやディケイドやディエンド、プリキュア達はハイパーショッカーの本部へ向かった。

クウガ「絶対に勝てよ、士。」

黒獅子リオ「さぁ、始めるか。」

ダークプリキュア「あぁ。」

ゴーカイレッド「どうなってんだ？」

ハイパーショッカーの本部へ見つけ、中へ入ると妙に静かだった。

此処の本部は怪人達がいるはず。それなのに・・・

ルルン「誰もいないルル。」

ルルンの言う通り、ショッカー首領や戦闘員達すら誰もいなかった。するとゴーカイイエローとマリンは場所を間違えたと言うが、ムーンライトは間違うはずがなく、此処はハイパーショッカーの基地だ。間違いなはずはない。すると・・・

???「ようこそ、ゴーカイジャーやプリキュア、仮面ライダーの諸君。」

ディエンド「その声は・・・」

ピーチ「だ、誰!?」

ディエンドは後ろに振り向くと何とショッカー首領が姿を現した。それと同時にディケイドやゴーカイジャーやプリキュアも首領の方へ向く。

ディケイド「あれは・・・」

ディエンド「あれこそがハイパーショッカーの敵、首領だ。」

ブルーム「あれがハイパーショッカーの・・・」

ゴーカイシルバー「もう逃げられないぞ!」

首領?「黙されたな、ディケイド。」

ゴーカイレッド「何?」

すると首領の声が変わった。首領はマントや衣装を脱ぐと、その姿は何と十面鬼だった。

ディケイド「十面鬼！」

十面鬼「ライトを処分したつもりだが、本物は此処にある」

十面鬼の手には何とムーンライトがすり替えたはずのミラクルライトだった。

ルミナス「何時の間に！」

十面鬼「あの時私が落としたミラクルライトは、すでに偽物にすり替えたのだ。」

ムーンライト「そんな・・・」

首領「つまり、貴様達を一網打尽をする為の罠だったのだ。」

すると十面鬼の後ろからショッカー首領と黒沢歩美が現れた。

ゴーカイピンク「あれ、あの子は確か・・・」

ゴーカイピンクは歩美を見るとゴーカイジャーと出会ったショッカープリキュアとそっくりな少女だった。

ディリー「あの子こそが、ショッカープリキュアよ。」

ディケイド「あいつが？」

首領「出でよ、ショッカープリキュア！」

ショッカー首領はショッカーライトを使うとショッカーライトは光り始め、それと同時に十面鬼が持っていたミラクルライトが光り始め、その光は歩美に向けて反射した。歩美は目をつむると歩美の体が光り始めた。

ミューズ「何この光!?」

エルス「これが、ショッカープリキュア誕生の瞬間。」

歩美「許せない、スーパー戦隊。いつか私はパパとママを救えなかったお前達を復讐すると誓った。貴様等は、私が一人残らずぶっ潰す！プリキュア！ショッカープロテクション！」

歩美が叫ぶと歩美の姿からショッカープリキュアの姿に変わった。ショッカープリキュアは変身を終えるとゆっくり地に着いた。

ゴーカイグリーン「スーパー戦隊の復讐?」

ゴーカイブルー「じゃあお前はスーパー戦隊の世界で生まれたのか？」

ショッカープリキュア「えぇ、私はスーパー戦隊の世界で生まれた住人よ。」

「！」

すると十面鬼と首領はゴーカイジャーとプリキュア、ディケイド達

の最後である事を知り、二人は姿を消した。。

ディケイド「此処で全てを終わらせるぞ。」

ゴーカイレッド「あぁ、行くぜ！」

「おう！」

ゴーカイジャーとプリキュア、ディケイドとディエンドは一斉に走り出す。ゴーカイブルーとゴーカイイエローはゴーカイサーベルで攻撃。だが、ショッカープリキュアは片手で止め、手を離すと拳で二人を吹き飛ばす。次はルミナスに向かって衝撃波を放つ。それを見たゴーカイグリーンとエルスとディリーはルミナスの身代わりに攻撃に喰らってしまう。ディケイドは拳で攻撃するが、全く効果はなかった。ショッカープリキュアはディケイドライバーをはぎ取ると士の姿に戻ってしまい、士を蹴り飛ばす。ディエンドはディエンドライバーでショッカープリキュアに向けるが、カブトの能力でショッカープリキュアはディエンドライバーを奪い、ディエンドライバーをディエンドに向けて連射した。ディエンドは海東の姿に戻ってしまい、ディエンドライバーを投げ捨てた。

ミューズ「プリキュア！スパークリングシャワー！」

ミューズはショッカープリキュアに向けて必殺技を放つ。だがショッカープリキュアは右手を前に出すとバリアが現れ、ミューズの必殺技を防ぐ。更にミューズの必殺技をはね返し、ミューズは避ける暇もなくスパークリングシャワーに直撃してしまう。それと同時にアコの姿に戻ってしまった。

メロディ「アコ！」

ショッカープリキュア「プリキュア！流星群！」

ショッカープリキュアは右手を前に出すと、ショッカープリキュアの手から流星群が現れ、プリキュア達の周りから大爆発が起こった。ゴーカイシルバーは後ろから攻撃しようとしたが、ショッカープリキュアは片手で止めた。

ゴーカイシルバー「どうして？どうしてスーパー戦隊を憎むんだ！」

ショッカープリキュア「私はレジェンド大戦でパパとママは私を守る為にザンギャックに殺された。私はスーパー戦隊の助けを待ったのに助けてくれなかった。だから私はあいつ等を復讐する為に一人で生きて来たのよ！」

ゴーカイシルバー「そんな理由で・・・そんな理由でスーパー戦隊の復讐なんて間違ってるよ！」

ショッカープリキュア「うるさい！」

ショッカープリキュアはゴーカイシルバーを投げ飛ばした。ゴーカイピンクはゴーカイガンで攻撃するが、何故か地面の方に撃っていた。

ゴーカイピンク「確かに貴方の気持ちは分かります。私の星も、ザンギャックに滅ぼされました。貴方も私と同じです。ですがスーパー戦隊は皆の地球の平和を守る為に戦ったんです。貴方がスーパー戦隊を倒せば、地球は誰が救えるのですか？」

ショッカープリキュア「あ、それは・・・」

ショッカープリキュアはスーパー戦隊を倒せば一体誰が地球を救える事を考えてなかった。そして彼女はスーパー戦隊は皆を守っている事を思い出し、ショッカープリキュアは地面に転んだ。

ショッカープリキュア「私、間違ってた。私、何でこんな事してるんだろう?私、何でただの八つ当たりなんかしたんだろう?」

ルミナスはショッカープリキュアに近付くと、ルミナスは手を差し述べた。

ルミナス「一緒にやり直しましょう。そうすれば貴方には生きる価値はきっとあります。」

ショッカープリキュア「初めて会ったのに、私を支えてくれるの?」

ルミナス「はい。」

ポルン「ショッカープリキュア、ポルンも一緒ポポ♪」

ルルン「ルルンも一緒ルル♪」

ショッカープリキュア「・・・」

ショッカープリキュアはルミナスの手をゆっくりと手を繋ごうとしたその時・・・

首領『ショッカープリキュア、貴様の使命は忘れたのか?』

ショッカープリキュア「え?」

首領の声が聞こえるとショッカープリキュアの腰に付いてるベルトから電撃が流れ、ショッカープリキュアを襲った。

ルミナス「ショッカープリキュア！」

ショッカープリキュア「来ないで！ぐっ、うぅ・・・」

ゴーカイレッド「ショッカープリキュア！」

ショッカープリキュア「うわあああああ！」

電撃が無くなるとショッカープリキュアはゆっくりと体が下に向いた。ショッカープリキュアはゆっくり前を向くとショッカープリキュアの目は赤く光っていた。

ルミナス「ショッカープリキュア？」

ショッカープリキュア「倒す。この手で・・・貴様等を！うおー！」

ショッカープリキュアはうなり声を上げるともの凄い風が吹き始め、ゴーカイジャーとプリキュア、士と海東は吹っ飛んだ。吹っ飛んだ同時にゴーカイジャーとエルスとディリーの変身が強制解除されてしまった。ショッカープリキュアはゆっくりとマーベラス達やプリキュアに近付く。

ルミナス「もうやめて下さい！ショッカープリキュア！争ったって何も変わりません！」

マーベラス「本当はスーパー戦隊を倒すつもりはないんだろ？」

士「スーパー戦隊は何の為に戦おうとしたのかお前には分かるはずだ！」

ショッカープリキュアは聞く耳もなく、ゆっくりと近付いて行く。
もう無す術は無いと思ったその時。

ショッカープリキュア「ん？」

マーベラス達は後ろに振り向くと、ゴーカイガレオンと豪獣ドリルが現れ、中からブラックコンドル達やダークドリームやダークプリキュアやキュアフラワー、そして栄光の7人ライダーが姿を見せた。

マーベラス「お前等・・・」

士「一号、二号。」

一号「よく頑張った。後は俺達に任せろ。」

そう言うと7人ライダーはマーベラス達やルミナスやアコ、御子とアイリをゴーカイガレオンや豪獣ドリルの中へ連れて行く。

Ｖ３「彼女の事は俺達に任せろ。」

ルミナス「でも・・・」

ライダーマン「心配はいらん。俺達は彼女の心を取り戻すだけだ。」

一号「うん。」

7人ライダーはゴーカイガレオンから外へ出た。

一号「皆、準備はいいな？」

ブラックコンドル「勿論。」

アバレキラー「ときめくぜ。」

ブラック「私達も。」

ホワイト「皆、やりましょ。」

「うん！」

そして7人ライダーとプリキュアオールスターズ、ブラックコンドル達はハイパーショッカーとの最終決戦が今始まった。その間にゴーカイガレオンと豪獣ドリルが動き始め、少しずつ地面に離れていく。

夏海「この時代の事は、仮面ライダーやプリキュア、スーパー戦隊にお任せしましょう。」

ユウスケ「だな。取り敢えずこれで歴史の修復は完了だ。」

海東「あぁ。」

これでようやく全てが終わる、そう思った。そう思っていたはずだったが・・・

「ぐあー！」

「！」

ゴーカイガレオンと豪獣ドリルの外を見てみると、何と7人ライダーとプリキュアオールスターズ、スーパー戦隊はショッカープリキュアに圧倒されていた。ショッカープリキュアを元に戻すにはまだ力が足りないのか？我慢出来ないマーベラスは助けようとしたが、士はマーベラスを止めた。だが、アコはある事に気付いた。

アコ「ねぇ、ひかりは？」

ルカ「え？」

マーベラス達はルミナスがいない事に気付いた。そこでアイムはあるものを発見した。それと同時に発見した、それは・・・

マーベラス「ひかり！」

何と、何時の間にかルミナスはゴーカイガレオンから降りていた。ルミナスは苦戦している7人ライダーやプリキュア、スーパー戦隊を見ていると拳を握り閉めていた。マーベラスとポルンとルルンは、船の天上からルミナスを呼んだ。

ポルン「ルミナス！何考えてるポポ！？」

マーベラス「戻って来いひかり！ひかりー！」

ルミナス「私は・・・私はショッカープリキュアを助けたいんです！」

ルミナスはそう答えるとルミナスは戦っているブラックとホワイトを見た。そう、ルミナスはずっと取り戻したかった仲間。それが今、目の前にいる。

ルルン「ひかり、戻るルル！」

ポルン「ナビィ！ゴーカイガレオンを止めてくれポポ！早くしないとひかりが・・・」

ナビィ「無理だよ！このままだとゴーカイガレオンや豪獣ドリルが奴等にやられちゃうよ！」

マーベラス「ひかり！戻って来い！」

ルミナス「マーベラス！」

ルミナスはマーベラスの名を呼ぶと、ルミナスはゴーカイガレオンを見る。だが、マーベラスだけは見えた。そしてルミナスはマーベラスに・・・

ルミナス「私、マーベラスの事が大好き。マーベラスに会えてよかった。後は、私達の未来を・・・頼みます。」

これがルミナスの最後の言葉になった。

マーベラス「ひかり・・・ひかり！行くなー！」

ポルン「ひかりー！死んじゃ嫌ポポ！」

ルルン「ひかりー！」

三人は叫ぶが、ルミナスは答えない。ルミナスはゆっくりとショッカープリキュアに近付く。近付いている途中に、ルミナスは涙を流した。そしてルミナスはショッカープリキュアに突撃する。

ルミナス（私は必ず生きて帰って来ます。だから、また皆で笑いましょう！）

マーベラス「ひかりいいいいいい！」

マーベラスはそう叫ぶとゴーカイガレオンと豪獣ドリルの中へ入った。ルミナスはブラックとホワイトの所へ駆け寄る。

ルミナス「なぎささん！ほのかさん！」

ブラック「ひかり・・・」

ルミナス「一緒にやりましょう。」

ホワイト「うん！」

そしてルミナスの中心に右側からブラックやブルームやイーグレットやドリーム達やダークドリーム、
一号やＶ３やＸやストロンガーやドラゴンレンジャーやタイムファイアーやアバレキラーや黒獅子リオ、
左側からホワイトやピーチ達やブロッサム達やメロディ達やキュアフラワーやダークプリキュア、
二号やライダーマンやアマゾンやブラックコンドルやデカマスターやウルザードファイアーがいた。このまま負けるかもしれないが、でもやるしかないのだ。

ルミナス「皆さん、ショッカープリキュアを助けましょう！」

「うん！」

ルミナスはショッカープリキュアを守る為、ショッカープリキュアの戦いが始まった。

第１６話：ルミナスの想い（後書き）

さらばひかり！果たして次回はどうなる？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3772x/

海賊戦隊ゴーカイジャーVSプリキュアオールスターズ2 プリキュアが敵！？世

2011年12月25日17時53分発行